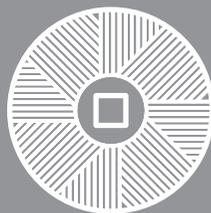
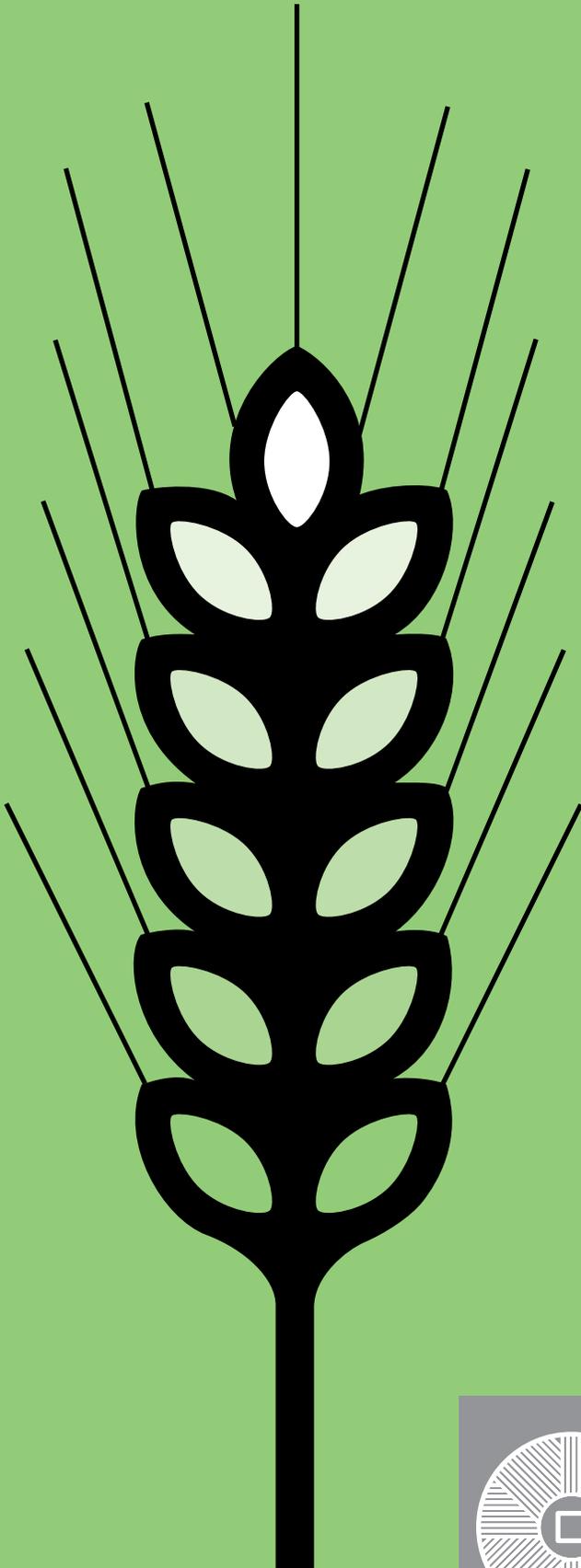


ISSN0913-8838

製粉 振興

2012
No.547
7



財団法人 製粉振興会

★目次

我が国の経済連携協定の推進と
製粉産業について 3

国内産小麦(平成23年産)の品質について 5
製粉協会 理事 製粉研究所 所長 廣橋知幸

パスタをめぐる最近の動向 15
(社)日本パスタ協会 専務理事 高木悦郎

製粉と小麦粉のお国ぶり —その19—
ブラジル 25
財団法人製粉振興会参与、農学博士 長尾精一

小麦粉のある風景
簡単おいしい「小麦粉ごはん」 27
食文家 ひらの あさか

世界の粉界展望 31

業界ニュース 29
国内資料 45
編集後記 51

我が国の経済連携協定の推進と 製粉産業について

平成22年11月、政府は『包括的経済連携に関する基本方針』を決定し、「センシティブ品目について配慮を行いつつ、すべての品目を自由化交渉対象とし、交渉を通じて、高いレベルの経済連携を目指す」とし、その中で「TPP(環太平洋パートナーシップ)協定については、その情報収集を進めながら対応していく必要があり、国内の環境整備を早急に進めるとともに、関係国との協議を開始する」とした。その後、昨年11月には、「TPP交渉参加に向けて関係国との協議に入る」と表明している。

WTO交渉が進展していない中で、各国が二国間でEPAを次々と結んでおり、我が国においても、TPP交渉の協議だけでなく、日韓EPA、日豪EPAなどの交渉を開始している。グローバル競争の時代において経済連携を推進していくことは日本の競争力、国力を確保していく上で大事な視点であると考え、一方で、TPP交渉とそれ以外のEPA交渉とは国民生活、国内経済、産業、社会に与える影響は大きく異なることを念頭において、考えていかなければならない。

TPP交渉は21の幅広い分野を取り扱うことに加えて、各国との事前協議で収集された情報において、多くのTPP交渉参加国が例外なく全ての品目を自由化交渉の対象としてテーブルにのせるべき、関税は90～95%を即時撤廃し、残りも7年以内に段階的に撤廃すべきとの考えを基本としていることが判明するなど、従来と比べて格段に自由化率の高い経済連携協定となっている。また、本年に入ってから政府は地域シンポジウムの開催や製粉産業の2団体を含めた48団体及び地方団体、個別都道府県との意見交換会を行い、情報提供を進め、その概要は公表されているが、賛否両論が相容れず、現段階では政府がTPP交渉に参加する、参加しないを決断するに至っていない。

TPP交渉を含めたこれらの経済連携を進めていくに際して、製粉産業を含む小麦関連産業の視点からは次の3つの視点に留意していくことが大切だと考える。

1つ目として、主要食糧である小麦、小麦粉の安定確保である。日本の食料自給率は40%程度であり、60%は海外からの輸入に頼っている。そうした中、世界的にはBRICsを中心に人口が急増しており、またこれらの国においては生活水準、食生活が向上し、世界的に穀物や食品原料の調達競争が起こっている。世界各地で異常気象による穀物の不作、相場の乱高下が見られるが、一昨年はロシアが穀物を禁輸するなど不測の事態も起こっている。また穀物以外の食品原料において

も日本の買い負けなども起きており、食料の安定供給の確保が困難となる恐れが懸念される。小麦、小麦粉についてはパン、麺など幅広い食品の原料として使われる国民の主要食糧であるが、国内産小麦の比率は10%程度であり、残りはアメリカ、カナダ、オーストラリアから輸入されている。製粉産業はこれらの小麦を加工適性にあわせてブレンドし、世界的にも有数の高品質の小麦粉に加工することで国民の豊かな食生活に寄与しており、小麦、小麦粉の安定確保は重要なテーマである。TPP協定を含めた経済連携協定締結による食料安全保障面での支障がないか検証を十分に行うことが重要である。

2つ目として、国境措置の整合性の確保が経済連携を推進する上での大前提となる。万が一、原料と製品の関税が整合性のない形で経済連携協定が合意された場合、あるいは関税が段階的に削減される際に原料関税だけが高止まりし製品関税が先行して引き下げられるような事態が起きた場合、製粉産業を含めた日本の食品産業の競争力が失われ、衰退は避けられなくなる。そして、生産拠点の海外移転が進み、国内産小麦をはじめ国産原料自体の需要もなくなるなど、甚大な影響が想定され、国民経済的なマイナスが極めて大きい。原料と製品の関税削減の整合性は最低限確保されなければならない。

3つ目として、これらの経済連携交渉がどのように進展するかにかかわらず、製粉産業が、コスト削減、小麦二次加工産業や消費者のニーズに合致した製品開発、販売を行っていくことが重要である。これらの取組みを着実に積み重ねていくことで、製粉産業、小麦関連産業の競争力が確保され、国際競争に勝ち残っていけると考える。

政府は高いレベルの経済連携の推進と食料自給率の向上並びに国内農業・農村の振興を両立させるための対策を講じる目的で、昨年10月に「我が国の食と農林漁業の再生のための基本方針・行動計画」を策定し、それを踏まえて本年3月に「食品産業の将来ビジョン」を策定した。「食品産業の将来ビジョン」において、食品産業は農林水産業とともに発展し、我が国の経済成長を牽引する役割が期待されている。TPP交渉をはじめとする経済連携協定交渉にあたっては、農業基盤の確保と同時に製粉産業を含めた食品産業の競争力を確保できるように進めていくことが大切である。また、国民が判断できるよう、その影響に関する情報の開示をきちんと行った上で、国民的議論を踏まえて判断していくことが望まれる。そして、製粉産業としてもこれらの交渉状況をよく注視するとともに、国民生活に影響が生じると考えられる場合には関係者に理解を得るよう積極的に働きかけていくことが必要となる。

国内産小麦(平成23年産)の品質について

廣 橋 知 幸

1.はじめに

製粉協会では、例年市場に出回った小麦を協会加盟各社にお願いしてサンプリングし、在京4社の協力の元、小麦の品質評価を実施している。本稿では、昨年(平成23年秋)収穫された小麦を秋から冬の期間にサンプリング、春から理化学試験、製粉試験、製麺試験を実施した結果を基に小麦の品質を中心に生産状況、主産地の主要銘柄についても概要を報告する。尚詳細は、「国内産小麦の品質評価(主要産地の主要品種)－平成23年産－」(発行平成24年6月製粉協会技術委員会)として小冊子に纏めている。

2. 平成23年の生産状況

農林水産統計によると23年産の作付面積は全

国で211,500haで昨年よりやや増加している。また地区別では北海道が119,200haで全体の半分を超え、次いで九州の34,600ha、関東の21,700haとなっており、この3地区が日本の小麦の主要産地となっている。また、東海地区も15,000haと続いている(表-1)。

生産量は、北海道での出穂期以降の高温により、関東地区では播種の遅れ、生育期の低温、日照不足、九州地区での生育期の降雨、春先の低温や日照不足などの影響があったものの、検査数量ベースでは、全国で約863,000トンと不作だった前年より約180,000トン増えた。地区別には北海道が約609,000トン(前年より約149,000トン増)、九州が約107,000トン(前年より約14,700

表-1 地域別小麦作付面積の推移

(単位：ヘクタール)

| 地域名 | 18年産 | 19年産 | 20年産 | 21年産 | 22年産 | 23年産 |
|-----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 北海道 | 120,500 | 117,100 | 115,700 | 116,300 | 116,300 | 119,200 |
| 東北 | 8,240 | 8,160 | 8,180 | 8,390 | 8,340 | 8,110 |
| 関東 | 25,700 | 22,800 | 23,000 | 22,800 | 21,900 | 21,700 |
| 北陸 | 67 | 69 | 68 | 131 | 176 | 138 |
| 東海 | 14,200 | 14,300 | 14,500 | 14,600 | 14,500 | 15,000 |
| 近畿 | 8,700 | 8,810 | 9,020 | 9,150 | 9,110 | 9,350 |
| 中国 | 1,270 | 1,270 | 1,370 | 1,420 | 1,410 | 1,470 |
| 四国 | 1,700 | 1,590 | 1,830 | 1,770 | 1,770 | 1,890 |
| 九州 | 37,800 | 35,600 | 35,100 | 33,700 | 33,400 | 34,600 |
| 全国計 | 218,300 | 209,700 | 208,800 | 208,300 | 206,900 | 211,500 |

農林水産統計(農林水産省大臣官房統計部 平成24年4月5日公表)より抜粋

トン増)関東地区が約62,000トン(前年より5,000トン増)となっている。また、品質的にも1等比率は、低かった前年の55%を上回り70%に迫っている。これは、北海道が不作だった前年(49%)から78.7%と大幅に向上したのが寄与している。しかし、九州地区は降雨の影響もあり、前年の70%から更に低下し47%となった(表-2)。

3.主要生産地と主要銘柄について

<北海道>

平成21年本格的な生産が開始された「きたほなみ」は、3年間かけて「ホクシン」から切り替えられ、平成23年産の検査数量は北海道地区の92.9%に達した。他の秋播き小麦は「キタノカオリ」0.9%、「きたもえ」0.4%、「ホクシン」0.3%、「タクネコムギ」0.3%、「ホロシリコムギ」0.2%

表-2 平成23年産小麦検査成績

| | 検査数量 (トン) | 等級比率(%) | | |
|------|--------------|---------|------|-------|
| | | 1等 | 2等 | 規格外 |
| 北海道 | 608,816 | 78.7 | 2.3 | 19.1 |
| 東北地域 | 13,453 | 74.0 | 18.7 | 7.3 |
| 青森 | 2,179 | 90.1 | 7.8 | 2.1 |
| 岩手 | 6,372 | 86.8 | 12.4 | 0.9 |
| 宮城 | 3,891 | 62.3 | 18.7 | 18.9 |
| 秋田 | 484 | | 79.6 | 20.4 |
| 山形 | 210 | | 95.1 | 4.9 |
| 福島 | 316 | 13.5 | 76.4 | 10.1 |
| 関東地域 | 62,096 | 68.1 | 28.8 | 3.1 |
| 茨城 | 10,611 | 27.6 | 67.3 | 5.1 |
| 栃木 | 7,313 | 89.7 | 5.6 | 4.8 |
| 群馬 | 21,534 | 66.1 | 31.3 | 2.6 |
| 埼玉 | 14,361 | 77.7 | 20.1 | 2.2 |
| 千葉 | 1,502 | 53.9 | 36.5 | 9.6 |
| 東京 | 1 | | | 100.0 |
| 神奈川 | 45 | 7.9 | 91.5 | 0.5 |
| 山梨 | 63 | 52.4 | 46.6 | 1.0 |
| 長野 | 6,666 | 98.7 | 1.3 | 0.0 |
| 北陸地域 | 138 | 69.3 | 26.8 | 3.9 |
| 新潟 | 10 | | 97.9 | 2.1 |
| 富山 | 51 | 100.0 | | |
| 石川 | 71 | 60.8 | 31.8 | 7.3 |
| 福井 | 7 | 30.9 | 69.1 | |
| 東海地域 | 41,124 | 27.0 | 47.5 | 25.5 |
| 静岡 | 1,260 | 64.3 | 20.2 | 15.5 |
| 岐阜 | 7,471 | 0.1 | 53.3 | 46.6 |
| 愛知 | 17,716 | 51.7 | 36.3 | 12.0 |
| 三重 | 14,677 | 7.6 | 60.4 | 32.0 |

| | 検査数量 (トン) | 等級比率(%) | | |
|---------|--------------|---------|------|-------|
| | | 1等 | 2等 | 規格外 |
| 近畿地域 | 20,390 | 14.7 | 71.6 | 13.7 |
| 滋賀 | 15,875 | 14.3 | 72.3 | 13.4 |
| 京都 | 157 | 18.0 | 78.8 | 3.2 |
| 大阪 | | | | |
| 兵庫 | 4,156 | 13.8 | 70.3 | 15.9 |
| 奈良 | 202 | 59.4 | 40.6 | |
| 和歌山 | | | | |
| 中国・四国地域 | 9,847 | 40.1 | 51.0 | 8.9 |
| 鳥取 | 3 | | | 100.0 |
| 島根 | 109 | | 97.1 | 2.9 |
| 岡山 | 1,518 | 79.9 | 12.7 | 7.5 |
| 広島 | 202 | 21.2 | 66.4 | 12.3 |
| 山口 | 1,910 | 16.1 | 60.7 | 23.2 |
| 徳島 | 219 | 53.3 | 41.3 | 5.5 |
| 香川 | 5,331 | 42.2 | 53.6 | 4.2 |
| 愛媛 | 554 | 2.5 | 87.6 | 9.9 |
| 高知 | | | | |
| 九州地域 | 106,739 | 46.7 | 37.4 | 16.0 |
| 福岡 | 46,683 | 48.1 | 35.9 | 16.0 |
| 佐賀 | 38,360 | 62.8 | 16.2 | 21.0 |
| 長崎 | 2,180 | 1.6 | 87.2 | 11.1 |
| 熊本 | 13,856 | 14.2 | 79.8 | 6.0 |
| 大分 | 5,643 | 22.2 | 70.0 | 7.8 |
| 宮崎 | | | | |
| 鹿児島 | 17 | | 93.8 | 6.2 |
| 沖縄 | | | | |
| 計 | 862,601 | 69.4 | 13.2 | 17.4 |

農林水産省生産局農産部穀物課農産物検査班の資料による

の順となっている。

平成12年産から作付された春播き小麦の「春よ恋」は、年々作付面積は増加傾向にあったが、ここ数年は生産量は横ばいであり、平成23年産の検査数量は北海道地区の3.7%であった。他の春播き小麦は「はるきらり」0.5%、「ハルユタカ」0.4%の順となっている。

<関東>

関東は北海道、九州に次ぐ小麦生産地である。検査数量の全国に占める割合は、以前は15~20%あったが年々減少している。平成23年産の検査数量は62,096トンと前年に比べ約5,000トン増加したが、全国に占める割合は7.2%と前年(8.4%)より減少した。

県別の検査数量は群馬県が最も多く関東地区全体の34.7%を占め、次いで埼玉県、茨城県、栃木県の順で、この4県で関東全体の86.7%を占めている。主要品種である「農林61号」は新品种「さとのそら」へ切り替えられつつある。

平成23年産の検査数量は、「農林61号」が関東地区の52.1%を占めている。次いで、「さとのそら」が8.9%、「つるびかり」が8.6%、「きぬの波」が5.2%となっている。

<九州>

九州は北海道に次ぐ小麦生産地である。平成23年産の検査数量は106,739トンと前年比115.9%となった。平成23年産の全国に占める検査数量の割合は12.4%と前年産(13.5%)より減少した。

九州産の小麦は、たん白含量が低い傾向にあり、国内産小麦の中では軟質的な性格を持っている。

県別の検査数量は、福岡県が43.7%を占め、次いで佐賀県が35.9%、次に熊本県、大分県の

順となっている。

平成23年産の検査数量は、「シロガネコムギ」が九州地区の47.0%、「チクゴイズミ」が32.9%を占めている。次いで「ミナミノカオリ」が7.4%、「ニシホナミ」が2.0%、「ちくしW2号」が1.7%、「ニシノカオリ」が1.1%となっている。

<その他の地区>

東北地区は、岩手県、宮城県、青森県が生産の中心である。平成23年産の作付面積は8,110ha(前年比97.2%)と同程度で、全国に占める割合は3.8%となっている。作柄は、越冬後出穂まで低温が続き、出穂が遅れたが、成熟期が高温で登熟が促進され日数不足となり、実の充実不足がみられ、10a当たり収量は平年を下回った。検査数量は13,453トン(前年比93.2%)となった。岩手県の作付面積は3,890ha(前年比103.2%)、青森県が1,900ha(同85.2%)、宮城県が1,370ha(同101.5%)で、この3県で東北地区の88.3%を占めている。

検査数量が最も多いのは「ナンブコムギ」で、東北地区の27.7%を占めており、次いで「ゆきちから」(26.0%)、「シラネコムギ」(19.9%)、「ネバリゴシ」(14.5%)の順となっている。

東海地区の平成23年産の作付面積は15,000haとほぼ前年並みで、全国に占める割合は7.1%となっている。作柄は、播種から出穂までは天候に恵まれ、穂数は十分に確保されたが、5月の温帯低気圧による風雨、5月下旬から6月上旬にかけての多雨により、10a当たりの収量は平年を下回り、1等比率は27.0%(前年60.7%)と大きく低下した。検査数量は前年より増加し、41,124トン(前年比135.4%)となった。三重県の作付面積は5,990ha(前年比106.2%)、愛知県が5,270ha(同101.7%)で、この2県で東海地区の

75.1%を占めている。

作付品種は「農林61号」が主体であるが減少傾向にあり、「イワイノダイチ」が増加している。平成23年産の検査数量は、「農林61号」が東海地区の39.2%を占め、次いで「イワイノダイチ」32.6%、「あやひかり」16.5%となっている。

近畿地区は滋賀県と兵庫県が生産の中心で、平成23年産の作付面積は9,350ha(前年比102.6%)とほぼ同程度で、全国に占める割合は4.4%となっている。作柄は、1月～3月が低温で推移し生育が遅れた上、5月末の台風、収穫期の降雨により、10a当たりの収量は平年を下回り、1等比率は14.7%(前年55.4%)と大きく低下した。検査数量は20,390トン(前年比110.5%)となっている。滋賀県の作付面積は7,050ha(前年比102.6%)、兵庫県が2,020ha(同103.1%)で、この2県で近畿地区の97.0%を占めている。

検査数量が最も多いのは「農林61号」で、近畿地区の54.7%を占めており、次いで「シロガネコムギ」(19.0%)、「ふくさやか」(17.7%)の順になっている。

中国・四国地区では、香川県、山口県、及び岡山県が生産の中心である。平成23年産の作付面積は中国・四国両地区合わせて3,360ha(前年比105.7%)で、全国に占める割合は1.6%となっている。作柄は12月中旬から低温で推移し、降水量も少なく生育が遅れた上、5月下旬の台風、その後の降雨により、10a当たりの収量は平年をやや下回り、1等比率は40.1%(前年57.0%)と低下した。前年と比較すると検査数量は増加し9,847トン(前年比143.6%)となっている。香川県の作付面積は1,590ha(前年比104.6%)、山口県が720ha(同97.7%)、岡山県が453ha(同107.3%)で、この3県で中国・四国両地区の82.2

%を占めている。

検査数量は「さぬきの夢2000」が中国・四国地区の47.2%を占めている。次いで「シラサギコムギ」(12.9%)、「ニシノカオリ」(8.6%)の順になっている。

4.品質評価まとめ(主要産地の主要品種)

今回の出回り品の品質評価試験の内、23年産の小麦分析値、テストミル60%粉の分析値は、表-3、表-4に記載している。次に出回り数量の多い品種、今後作付が増加すると思われる品種について、出回り品の品質評価だけでなく、製粉協会製粉研究所が実施した他の品質評価試験の結果も加味して、その特徴をコメントする。

[きたほなみ](北海道)

現在の国内産小麦の中では容積重は高い傾向であり、「ホクシン」と比較しても同等かやや高かった。また、「ホクシン」と比較して灰分、たん白は同等かやや低い傾向がみられる。

平成23年産のたん白含量は、前年と比較して十勝地区では低く、その他地区ではかなり低かった。本格的に流通してから2年目であるが、年度によるバラツキが見られた。

製めん性は、食感では、「ホクシン」と同様「農林61号」と比べて粘弾性、なめらかさの点で優れている傾向にある。めんの色は明るく、黄色みがある傾向があり、平成23年産においても、群馬県産「農林61号」と比べても、「ホクシン」と比較しても色の評価が高く、明るく黄色みがある。

しかし、今後生産量の増加、地区の拡大に伴い、今後の出回り品の品質を注視していく必要がある。

表一三 国内産小麦主要産地主要品種の試験結果一覧表(平成23年産抜粋)(1)

| 農林61号 群馬 (標準) | 北海道 | | | 東北 | 関東 | | | さとの そら 群馬 参考 データ | ASW (平成 23年度) 参考 データ |
|---------------------|-------------------|-------------------|------------------------|------------------|-------------|-------------|-----------------|------------------------------|----------------------------------|
| | きた ほなみ 網走地区 | きた ほなみ 十勝地区 | きた ほなみ その他 地区 | ナンブ コムギ 岩手 | 農林61号 茨城 | 農林61号 埼玉 | つる ぴかり 群馬 | | |

小麦原料性状

| | | | | | | | | | | |
|--------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 水分(%) | 12.2 | 12.7 | 12.6 | 12.6 | 12.7 | 12.5 | 12.9 | 12.9 | 12.7 | 9.5 |
| 灰分(%)* | 1.63 | 1.54 | 1.45 | 1.41 | 1.46 | 1.60 | 1.63 | 1.53 | 1.53 | 1.27 |
| たん白 (%)* | 10.0 | 11.0 | 10.4 | 10.2 | 10.9 | 9.8 | 10.4 | 9.3 | 9.3 | 10.1 |
| 容積重 (g/l) | 802 | 840 | 814 | 828 | 802 | 791 | 811 | 813 | 801 | 804 |

60%粉性状

| | | | | | | | | | | |
|---------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 灰分(%)* | 0.40 | 0.39 | 0.38 | 0.36 | 0.38 | 0.40 | 0.40 | 0.42 | 0.37 | 0.42 |
| たん白 (%)* | 8.3 | 9.1 | 8.7 | 8.6 | 9.3 | 8.1 | 8.8 | 7.7 | 7.6 | 8.9 |
| C.G.V. | -1.2 | -2.5 | -2.2 | -2.9 | -1.1 | -1.4 | -0.9 | -2.2 | -2.3 | -3.2 |
| アミロ 粘度 (B.U.) | 970 | 1000 | 980 | 980 | 1000 | 890 | 940 | 1270 | 955 | 950 |

表一四 国内産小麦主要産地主要品種の試験結果一覧表(平成23年産抜粋)(2)

| シロガネ コムギ 福岡 | 九州 | | | 東海 | | | | 近畿 | |
|-------------------|-------------------|------------------|------------------|-------------|-------------|-------------------|-----------------|-------------|-------------------|
| | シロガネ コムギ 佐賀 | チクゴ イズミ 福岡 | チクゴ イズミ 佐賀 | 農林61号 愛知 | 農林61号 岐阜 | イワイノ ダイチ 愛知 | あや ひかり 三重 | 農林61号 滋賀 | シロガネ コムギ 兵庫 |

小麦原料性状

| | | | | | | | | | | |
|--------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 水分(%) | 12.4 | 12.8 | 12.3 | 12.7 | 12.1 | 11.9 | 11.8 | 11.5 | 12.1 | 13.1 |
| 灰分(%)* | 1.53 | 1.59 | 1.50 | 1.59 | 1.64 | 1.62 | 1.37 | 1.45 | 1.62 | 1.49 |
| たん白 (%)* | 10.6 | 11.1 | 9.6 | 9.4 | 9.3 | 9.8 | 8.8 | 9.3 | 9.7 | 8.9 |
| 容積重 (g/l) | 815 | 819 | 810 | 803 | 806 | 785 | 798 | 809 | 790 | 780 |

60%粉性状

| | | | | | | | | | | |
|---------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 灰分(%)* | 0.39 | 0.38 | 0.40 | 0.40 | 0.40 | 0.37 | 0.42 | 0.39 | 0.39 | 0.36 |
| たん白 (%)* | 8.5 | 9.2 | 7.8 | 7.4 | 7.8 | 8.2 | 7.2 | 7.6 | 8.2 | 7.2 |
| C.G.V. | -1.6 | -0.9 | -0.9 | -1.2 | -1.3 | -0.9 | -1.9 | -0.4 | -0.4 | -2.0 |
| アミロ 粘度 (B.U.) | 760 | 725 | 1100 | 885 | 960 | 890 | 1160 | 1250 | 580 | 840 |

[農林61号](関東)

「農林61号」は北海道、東北、北陸地区を除き、従来から広範囲に栽培されてきた日本の代表的な品種であり、国内産小麦の品質評価の際にめん試験の標準(群馬県産)として用いられている。しかし、たん白含量が低い傾向がみられるほか、近年、粉の色は年産や地域による差が大きい。平成23年産は、たん白含量は前年に比べ、高い傾向であり、特に埼玉県産はかなり高かった。灰分は群馬県産が前年よりやや低く、各県産ともに平年並みであった。

めんの食感は「きたほなみ」などと比較し、粘弾性、なめらかさの点で劣る傾向にある。一般に国内産小麦の中では、比較的安定した品質であることは評価できるが、めんの色については必ずしも良好とは言えず、粉の色と同様に天候の影響を受け、年産による差が大きい。

平成23年産については、埼玉県産の吸水が悪く、かたさと粘弾性が劣った。また、群馬県産の粉の色相(カラーバリュー値)が過去5年平均と比べやや悪かった。

[さとのそら](群馬)

22年産から群馬県で本格的に生産が始まり、「農林61号」の後継品種として期待されている品種である。群馬県では24年産についてはほぼ100%の切り替え、埼玉、栃木、茨城などでも農林61号からの切り替えを検討している。

平成23年産「さとのそら」(群馬)は、群馬県産「農林61号」と比べ、灰分がやや低く、めんの色がやや黄色みがあり、明るい傾向がある。食感の評点は大きな差はない。

また、群馬県以外の「さとのそら」に関しても試作圃場段階での試料の品質評価を実施しているが、群馬とほぼ同傾向にある。

今後、生産が増えるに従い容積重、灰分、た

ん白量、粉の色調などの推移、地区による品質のバラツキなどを注視していきたい。

[シロガネ](九州)

小麦の性状としては、群馬県産「農林61号」と比較して、灰分が低く、たん白含量は同等である。平成23年産のたん白含量は、福岡県産が10.6%と前年よりやや高く、佐賀県産が11.1%と前年よりかなり高く、出回り品として年産や産地によるバラツキがある。

めんの評価は、平成23年産は各項目とも、群馬県産「農林61号」と同程度の評点であった。

[チクゴイズミ](九州)

アミロース含量が従来の国内産小麦より低い「低アミロース小麦」で、平成7年産より本格的に生産が開始された。たん白含量は低めで、出回り品では年産や産地によるバラツキが大きい。平成23年産のたん白含量は、福岡県産が9.6%、佐賀県産が9.4%と平年よりやや高かった。

小麦としては粉状質であるため篩抜けが悪く、国内産小麦の中でも製粉適性は劣る。平成23年産については、ミリングスコアは群馬県産「農林61号」と比べ福岡県産、佐賀県産ともに同等であった。

めんは粘りが強い特徴のある食感である。群馬県産「農林61号」と比べ、粘弾性となめらかさの評点は高いが、かたさの点で劣る傾向にある。平成23年産についても同様の傾向が見られた。適正ゆで時間は短く、ゆで過ぎるとやわらかくなり過ぎる欠点がある。

低アミロース系小麦全般に言えることであるが、その食感は極めて特徴的である。また、加工適性においても既存品種との差が大きい。

[その他]

また北海道の春播き小麦である「春よ恋」は、年産や地区によるたん白や色調のバラツキがあるが、製パン試験では吸水や作業性の点を除くと昨年に引き続き比較的良好なパン製品となっている。

5. [おわりに]

最後に今年この小冊子(「国内産小麦の品質評価(主要産地の主要品種)－平成23年産－」)をまとめる上で大きく変わった点について触れてみたい。

ひとつは、冒頭の「要望される小麦品質」を見直したことである。昨年までは国内産小麦の用途を日本麺(うどん等)に限定した形で記述していたが、国内産小麦の用途拡大、自給率向上の声に応える形で従来の日本麺だけではなく、ハード系、ソフト系の小麦についても言及した。少し長くなるが、末尾に添付したので御参考にして頂ければ幸いである。

もうひとつは、主要品種が激変したことである。北海道では、『ホクシン』に替わり、『きたほなみ』が、すでに全道の生産の九割を占めている。また、群馬では『農林61号』に次いで、『さとのそら』が第二位となり、県内の生産量の二割に迫り、そして24年産ではトップの座に躍り出ていると言う。両品種とも粉の色相はクリー

ミーホワイトで、「内麦特有の粉のくすみ」と言った表現は、今や死語になりつつあると感じている。

小麦の品質には、その前提条件ともいえるべき「食の安心・安全」に関わる要因(例えば健全度や被害粒、カビ等の汚染など)はもとより、一次加工性(製粉適性)や二次加工性(例えば製パン適性・製麺適性など)そしてこれらに影響する分析項目等がある。更に、実需者の立場からは均一性(品質にフレの少ない小麦の安定供給)も問題となってくる。製粉企業にとって一定のレベル(幅)の品質の小麦を安定的に確保し、お客様である二次加工ユーザーへ高品質で品質の安定した小麦粉を継続して供給していくことが最大の責務であり、製粉企業はもとより小麦生産者を含む日本の小麦産業の発展に必要な事だと考えている。

例年、このような形で全国の小麦をサンプリングし、分析・二次加工試験を実施し、その結果をまとめているが、小麦の品質の持つ意味や、サンプリング方法や試験方法を考えるときちんと実際に市場で流通している小麦の品質を反映しているか不安もあるが、本稿が、実需者の皆さんや小麦生産者の皆さんの活動の一助になれば幸いです。

(製粉協会 理事)
(製粉研究所 所長)

要望される小麦品質

従来から国内産小麦は、日本めん用の原料として主にASWなどの輸入小麦と共に利用されてきた。製粉協会は昭和50年代から、日本めん用小麦としての品質に関し要望してきたところである。

平成22年に策定された「食料・農業・農村基本計画」において、10年後の食料自給率目標が示され、国内産小麦については、180万トンの生産数量目標が併せて示された。その中では、国内産小麦の利用方法として、従来の日本めん用だけでなく、パン用・中華めん用小麦の生産拡大等が克服すべき課題とされている。

現在、日本めん用小麦粉には、中間質の小麦(主として国内産小麦及びオーストラリアからの輸入小麦)、パン用・中華めん用小麦粉にはハード系小麦(主としてアメリカ及びカナダからの輸入小麦)、菓子用小麦粉にはソフト系小麦(主としてアメリカからの輸入小麦)が使用されている。日本の食文化を反映して、単に日本めんと言っても『うどん』から『そうめん』、パンと言っても『食パン』から『フランスパン』、菓子と言っても『ケーキ』から『和菓子』まで幾つもの種類があり、各製粉企業は、それぞれの用途により小麦銘柄とその使用比率を使い分け、小麦粉を製造、供給している。

従来、日本めん用に限定し要望してきた国内産小麦の品質に関し、国内産小麦の生産・利用の促進・増大を図る意味でも、日本で使用される小麦粉の原料となりうる小麦として、その品質に関し製粉協会としての要望をまとめる。

そこで、従来の日本めん用に加え、パンや中華めん、そして菓子に利用可能な国内産小麦の品質について、製粉協会としての考え方を次の通り整理する。

1. 小麦の品質とは

(1) 食品としての安全性が確保されていること

現在、「食の安心・安全」に対する消費者の関心は高く、小麦粉も食品であり、その安全性に対しては消費者のみならず、小麦粉加工メーカーからも常に注視されている。農産物である小麦に対しては、残留農薬、DON、異物、異臭、放射能など定められた基準などがあるが、さらに消費者に安心を与えられるよう、より健全で安全な原料小麦の供給を望むところである。

(2) 品質そのもの

小麦の品質は、一次加工性と二次加工性とに分けることができる。

①一次加工性とは、製粉性であり、製粉適性の良否は、灰分が低く色の良好な良質の粉を、より多く効率的に採れるかに掛かっている。国内産小麦は、皮部が厚くて皮離れも悪く、輸入小麦に比べて製粉適性が劣る傾向がある。

製粉適性の良否は、具体的には篩抜けが良く、かつビューラー型テストミル60%粉灰分が低く、ミリングスコアが高いほど一般的に良好といえる。ミリングスコアはテストミルによる製粉適性を示す指標として用いられているが、テストミルの機差もあるため、あくまで目安である。

②二次加工性とは、その小麦から採れた粉から消費者ニーズのある加工品を効率的に生産できるかであり、中間質小麦の場合うどんを主体とする日本めんの製めん適性、ハード系の場合には製パン適性や中華めん適性、ソフト系の場合には製菓適性(ケーキ適性)などを指している。

うどん用粉として望まれる製めん適性は、めんの色、食味・食感を中心とした官能評価により示される。「めんの色」は、明るくクリーミーホワイトであること、「食感」はかたさと粘弾性のバランスが良いことなどが必要である。

製めん試験結果は、ゆでめんの色、食感を中心とした官能評価の合計点により表わされ、点数が高いほど一般的に良好といえるが、合計点が高くても「めんの色・外観の小計」と「食感・食味の小計」の両方の評価、更に食感のかたさと粘弾性のバランスの評価が良くないと、製めん適性が良い小麦とはいえない。

また、製めん吸水、歩留り、作業性等が良好であることも必要である。

製パン用粉として望まれる品質は、吸水が高く、安定していること、生地の作業性(ミキシング耐性、発酵耐性、ハンドリング性など)が良いこと、そしてパン体積が大きいことなどを指している。

中華めん用粉として望まれることは、吸水が適度に高く、生地の作業性が良く、食感(歯応えなど)が良いこと、茹で伸びが遅い、色が明るい黄色でホシが少ないことなどである。

ハード系小麦の場合、同じ原料から製粉時の採分けによりパン用粉、中華めん用粉を製造するケースも多く、あるレベル以上での製パン適性、中華めん適性の、両方の適性を持っていることが要求され、これらには小麦特有のグルテンが大きく関与してくる。

また、パン用小麦粉には、たん白含量と質の良さの点でより高いものが求められる。これらの実情から、パン用・中華めん用に使用される国内産小麦には、従来の日本めん用に使用されていた国内産小麦よりも品質の安定性が求められ、生産面においてもさらに高い管理レベルが望まれる。

菓子用粉(主としてスポンジケーキなど)として望まれる品質は、たん白含量が少なくグルテンの質もソフトであり、作業性が良く、最終製品の形状が安定し、体積が大きいこと。製品の内相はキメが細かく、ソフトで口溶けの良い食感であることなどである。

(3) 品質の均一性

国内産小麦は同じ産地品種銘柄、等級であってもその性状に著しい差異が見られることがあり、同一産地内であっても品質のバラツキが大きいことが多い。製粉企業は年間そして年を超えて、一定の品質の小麦粉を二次加工メーカーへ安定的に供給することが最大の責務であり、その意味では品質が均一であり、かつ製粉適性が高く、二次加工適性の良い小麦の安定供給が望まれる。

2. 品質ファクターについて

(1) 小麦の形質が健全なこと

製粉適性、二次加工適性に悪影響を与える被害粒(発芽粒、病害粒、退色粒等)の混入が少なく、整粒比率の高いことが望ましい。一般に被害のない健全な国内産小麦は、澱粉の糊化特性が適度でアミラーゼ活性も低いため、アミロ粘度は比較的高い傾向である。アミロ粘度は、二次加工製品の製造工程、最終製品(体積・食感)に影響を及ぼすファクターである。また、DON(デオキシニバレノール)の暫定基準値は1.1ppm以下であるが、できるだけ低いことが望ましい。

*低アミロ小麦について

小麦の収穫時に雨害等を受けると、低アミロ小麦が発生する。低アミロ小麦とは、アミラーゼ活性が高くなり、澱粉の性質も変化している小麦であり、糊化特性が劣る。

(2) 水分が少ないこと

農産物規格規定では、最高限度が12.5%となっているが、できるだけ少ないことが望ましい。

(高水分だと保管上の問題や製粉時の調質上の問題が発生し、結果的に製粉性を低下させることがある。)

(3) 容積重が高いこと

容積重は主に原麦の充実度を表し、製粉歩留りとの相関も高い。

(4) 灰分が低いこと

高いと製粉適性を低下させる要因となるので1.50%以下が望ましい。(ハード系小麦は灰分が高くなる傾向があるため、1.60%以下)

(5) たん白含量がその用途に対し適量であること

用途が主としてうどん用である普通系的小麦では、たん白含量は10~11%のレベルが望ましい。

ハード系的小麦は用途が主としてパン・中華めん用であることから、たん白含量は12%以上のレベルが望ましい。また、量のみならず質も重要であることは前述のとおりである。

ソフト系的小麦は用途が主として菓子用であることから、たん白含量は10%以下のレベルが望ましい。

(6) 粉のグルテン量・質がその用途に適していること

グルテンとは、小麦粉に水を加えてこねたとき、主としてたん白で形成されるガム状のものである。グルテンは小麦粉独特のもので、この量が多く質の強い小麦粉は強力粉として主にパン用に使用され、量が少なく質の弱い小麦粉は薄力粉として主にケーキやクッキー、天ぷら用に使用される。

うどん用として使用される中力粉のグルテンの質と量は、強力粉と薄力粉の中間的なものであり、うどんの食感や作業性に影響する重要なファクターである。グルテンの量が多く質が強いと、その食感がかたくて、なめらかさに欠けたものになる。逆にグルテンの量が少なく質が弱いと、食感がやわらか過ぎ、煮くずれが多いめんになる。

ハード系的小麦では、グルテンの含有量と性状は、製パン時の吸水、生地特性(ミキシング耐性、発酵耐性、作業性など)、パン体積、製めん時の吸水、中華めんの食感、生地の作業性などの二次加工適性に大きく影響を及ぼす要因である。

輸入小麦の代替えとして国内産小麦を考えるなら、ハード系国内産小麦は、カナダ産の1CW、アメリカ産のDNS、HRWのグルテンの量及び質に近いものが、ソフト系国内産小麦は、アメリカ産のWWに近いものが望まれる。

(7) 色の良い粉が採取できること(胚乳部の色が良いこと)

明るいクリーミーホワイトな色が望ましい。

最後に、育種関係者の方々には製粉適性が高く、二次加工適性の良い品種の開発を望みたい。

また、生産者の方々には品質が良い品種をは種していただくとともに、栽培、収穫、調製、貯蔵、流通時の管理を徹底していただき、均一で良好な品質の小麦の供給をお願いしたい。

(「国内産小麦の品質評価(主要産地の主要品種) -平成23年産-」より)

パスタをめぐる最近の動向

高木悦郎

1 はじめに

今日、食事の形態は非常に多様化し、古来からあった料理のほかに面白い材料の組み合わせとか和洋折衷の味とかあるが、パスタ料理は、その中の代表料理のひとつとなり、食生活にすっかり定着した感がある。麺類をこよなく愛する日本人がパスタを見事にアレンジし、地方性豊かな材料を生かしながら、創造的なソースと合わせたパスタ料理が多くのレシピとして公表されている。当協会のホームページにおいても2千を超えるパスタレシピを掲載しているが、一般消費者等から年間83万回のアクセスを頂いている。これも含めパスタに関わる情報が多くだされ、家庭料理からコンビニ、レストランと幅広く楽しまれる食材となり、パスタの喫食も多くなった。平成23年のパスタ国内供給量は29.4万トンとなり、長年パスタ業界が目指していた年間国内供給量30万トンの大台にあと一步となった。当業界における最近の動向及び協会活動について紹介する。

2 パスタの国内供給量

パスタの国内供給量(国内生産量+輸入量-輸出量)の最近の状況は表-1のとおり。年により増減はあるものの、パスタの喫食の増加により、右肩上がりて推移し、平成23年の国内供給量は前述のとおりこれまでの最高の供給量となった。

(1)国内生産量

パスタの国内生産量は、本格的に生産が開始された昭和30年以降、前年割れや停滞した時期もあるがほぼ順調に増加した。表-1では平成6年から平成23年までの状況を示している。平成6年~平成11年までは対前年より順調に伸びて、平成11年には16万トン台となったが、その後の5年間は、14.5~15万トン台に減少している。平成18年に16万トン台に戻り、平成19年には過去最高の16.3万トンを記録したが、その後再び減少し、平成23年に震災特需の影響もあり16万トン台を回復したが、ここ最近の10年間は足踏みの状態となっている。パスタの需要は増加しているが、このところの経済状況から消費者は低価格志向にあり、総務省家計調査の結果から見ても安い輸入品に流れていることが考えられる。このため国産パスタメーカーは、輸入品との厳しい競争の中で、品質、安全、独自のアイデアでの利便性を消費者にアピールしている。

(2)輸入品数量

輸入量は、平成14年に10万トン台に達し、年により増減はあるが、ほぼ右肩上がりの状況で推移し、特に平成20年からトルコ、アラブ首長国連邦、チュニジアから低価格製品の輸入が増加した以降、堅調に推移している。平成23年には、震災後の保存食としての需要増や為替相場が円高、ユーロ安による輸入環境が整ったこと、国産パスタが原料小麦の高騰に伴い値上げが行われたことなどにより、対前年比11.5%増加の

表一1 パスタの国内生産量・輸入・輸出量等の推移
(1994年～2011年)

2012年1月31日現在
社団法人日本パスタ協会

| 年次 | 国内生産量 トン | | | 輸入量 トン | | | 輸出量 トン | | | 国内供給量 トン | | E=B/D 輸入品シェア | | |
|-----------|----------|--------|---------|---------------|------------------|----------------|---------|----------|---------------|----------|----------|-----------------|----------|------|
| | スパゲッティ | マカロニ | 計 | 11・000 卵入り | 19・093 スパゲッティ | 19・094 マカロニ | B 計 | 前年比 % | CIF価格 円/kg | C 計 | 前年比 % | D=A+B-C | | % |
| | | | | | | | | | | | | 計 | 前年比 % | |
| 1994(H16) | 108,184 | 28,026 | 136,210 | 665 | 52,071 | 2,891 | 55,567 | 115.4 | 90.0 | 2,949 | 95.6 | 188,828 | 104.9 | 29.4 |
| 1995(H17) | 109,137 | 28,993 | 138,130 | 486 | 59,141 | 3,545 | 63,172 | 113.7 | 91.0 | 2,682 | 90.9 | 198,620 | 105.2 | 31.8 |
| 1996(H18) | 120,527 | 28,745 | 149,272 | 637 | 66,595 | 3,849 | 71,081 | 112.5 | 117.0 | 2,441 | 91.0 | 217,912 | 109.7 | 32.6 |
| 1997(H19) | 128,494 | 29,050 | 157,544 | 804 | 67,795 | 6,168 | 74,767 | 105.2 | 121.0 | 1,912 | 78.3 | 230,399 | 105.7 | 32.5 |
| 1998(H10) | 129,941 | 29,362 | 159,303 | 641 | 75,432 | 5,066 | 81,139 | 108.5 | 128.7 | 1,547 | 80.9 | 238,895 | 103.7 | 34.0 |
| 1999(H11) | 131,963 | 29,640 | 161,603 | 585 | 80,010 | 5,263 | 85,858 | 105.8 | 108.8 | 661 | 42.7 | 246,800 | 103.3 | 34.8 |
| 2000(H12) | 121,880 | 28,338 | 150,218 | 946 | 88,346 | 5,806 | 95,098 | 110.8 | 95.7 | 376 | 56.9 | 244,940 | 99.2 | 38.8 |
| 2001(H13) | 115,635 | 28,106 | 143,741 | 623 | 85,813 | 6,235 | 92,671 | 97.4 | 103.5 | 315 | 83.8 | 236,097 | 96.4 | 39.3 |
| 2002(H14) | 121,329 | 26,514 | 147,843 | 551 | 91,974 | 8,891 | 101,416 | 109.4 | 106.0 | 255 | 81.0 | 249,004 | 105.5 | 40.7 |
| 2003(H15) | 121,878 | 26,559 | 148,437 | 1,265 | 97,480 | 9,009 | 107,754 | 106.2 | 112.4 | 409 | 160.4 | 255,782 | 102.7 | 42.1 |
| 2004(H16) | 124,108 | 26,377 | 150,485 | 908 | 99,928 | 10,682 | 111,518 | 103.5 | 113.5 | 328 | 80.2 | 261,675 | 102.3 | 42.6 |
| 2005(H17) | 128,848 | 25,897 | 154,745 | 1,335 | 98,268 | 10,001 | 109,604 | 98.3 | 114.6 | 1,054 | 321.3 | 263,295 | 100.6 | 41.6 |
| 2006(H18) | 135,101 | 25,975 | 161,076 | 634 | 99,338 | 9,816 | 109,788 | 100.2 | 119.2 | 1,195 | 113.4 | 269,669 | 102.4 | 40.7 |
| 2007(H19) | 138,632 | 24,855 | 163,487 | 453 | 94,851 | 9,106 | 104,410 | 95.1 | 133.5 | 1,150 | 96.2 | 266,747 | 98.9 | 39.1 |
| 2008(H20) | 133,291 | 25,289 | 158,580 | 571 | 117,155 | 9,529 | 127,255 | 121.9 | 175.7 | 743 | 64.6 | 285,092 | 106.9 | 44.6 |
| 2009(H21) | 124,230 | 25,621 | 149,851 | 401 | 105,962 | 10,051 | 116,414 | 91.5 | 137.4 | 821 | 110.5 | 265,444 | 93.1 | 43.9 |
| 2010(H22) | 129,557 | 25,662 | 155,219 | 333 | 110,503 | 9,816 | 120,652 | 103.6 | 113.3 | 769 | 93.7 | 275,102 | 103.6 | 43.9 |
| 2011(H23) | 132,100 | 28,351 | 160,451 | 370 | 123,449 | 10,649 | 134,468 | 111.5 | 108.1 | 607 | 78.9 | 294,312 | 107.0 | 45.7 |

注1：輸出入関係は財務省日本貿易統計(速報の権限)資料による。

注2：輸入…卵入りのもの(1902・11・000)、スパゲッティ(1902・19・093)、マカロニ(1902・19・094、*1902・19・099を除く)

注3：輸出…マカロニ類 (1902・19・100)

134,468トンと過去最高の輸入量となった。これにより国内供給量に占める輸入量のシェアは平成10年に34%であったものが、平成23年には45.7%となり、ここ10年間で12%と大きく伸びて国産の供給量に迫る状況にある。

なお、パスタの国別輸入推移は表-2のとおりで、平成14年から平成19年までは、概ね本場イタリアからの輸入が7割強、アメリカが2割、その他1割弱であったが、ここ最近(H20年～H23年)は、イタリアからの輸入量はふえているものの輸入量が増加したことから、全体に占める割合が7割程度から6.5割に減少。しかし、根強い本場志向やパスタ専門店・イタリア料理店においてイタリア産を使用する傾向が強い。アメリカは2割から1.7割と全体に占める割合は減っているが数量は安定的に一定量が輸入されている。最近著しく伸びているのがトルコで、平成14年に929トン(輸入量に占める割合1%)が平成23年に16,495トン(同12.3%)と大きく伸びている。イタリア、アメリカ、トルコの3カ国で輸入量全体の93.3%となる。CIF価格は、平成14年106円/kgで平成20年に175.7円/kg(穀物相場の高騰が要因)となった以降下降し、平成23年は平成14年の水準の108円/kgとなっている。円高、ユーロ安や安価な輸入品の需要増の影響と思われる。

3 原料小麦価格

パスタはデュラム・セモリナ(デュラム小麦を粗挽きにしたもの)と水だけで作られている。このため、製品価格は原料のデュラム小麦価格

に大きな影響を受けることになる。また、国からのデュラム小麦の売渡方法は、平成19年8月から売買同時契約方式(SBS制度)に移行しており、他の一般小麦より国際相場の影響を受け易くなっている。最近のカナダ産デュラム小麦政府売渡価格は表-3のとおり。平成22年10月以降のデュラム小麦の政府売渡価格(期間中の加重平均価格)は一般小麦の価格(5銘柄平均政府売渡価格)は下がったがデュラム小麦は高止まりで推移した。2011年(平成23)は天候不順等の影響を受け穀物の国際相場は上昇基調で推移し、デュラム小麦も高くなったことに伴い平成23年7月に製品価格へ反映するため製品の値上げが行われている。

4 パスタの種類別消費量

ロングパスタ(スパゲティ)とショートパスタ(マカロニ)の国内供給量の最近('09～'11年)の割合は、おおよそ前者が85%で後者が15%である。麺好きの日本ではロングが好まれている。本場イタリアではショートが多く消費されると聞いている。平成23年のショートパスタの国内生産量が10.5%、輸入量が8.5%ともに前年比で大きく伸びた。この背景には、当協会でもパスタクッキングスクール・セミナーにおいてパスタメニューの半分をショートパスタ料理で実施しており、これらも含め、パスタのいろいろな食べ方の広がりがショートパスタの需要拡大に繋がっているのかもしれない。今後ショートパスタには、一段の伸長の期待感がある。

表一2 パスタの輸入推移

(単位：数量MT・(%)、CIF価格kg/円)

| 地域国名 | 平成14年 | 平成15年 | 平成16年 | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 |
|--------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 総計 | 数量 101,416(100) | 数量 107,758(100) | 数量 111,518(100) | 数量 109,604(100) | 数量 109,788(100) | 数量 104,410(100) | 数量 127,255(100) | 数量 116,414(100) | 数量 120,652(100) | 数量 134,468(100) |
| | Cif 106.0 | Cif 112.4 | Cif 113.5 | Cif 114.6 | Cif 119.2 | Cif 133.5 | Cif 175.7 | Cif 137.4 | Cif 113.3 | Cif 108.1 |
| イタリア | 数量 77,367(76.3) | 数量 79,665(73.9) | 数量 81,575(73.1) | 数量 78,523(71.6) | 数量 77,571(70.7) | 数量 73,208(70.1) | 数量 89,577(65.7) | 数量 77,071(66.2) | 数量 77,831(64.5) | 数量 86,603(64.4) |
| | Cif 104.0 | Cif 109.1 | Cif 113.9 | Cif 114.4 | Cif 119.1 | Cif 134.2 | Cif 180.9 | Cif 144.1 | Cif 120.2 | Cif 114.3 |
| アメリカ | 数量 18,407(18.1) | 数量 21,048(19.5) | 数量 22,686(20.3) | 数量 22,487(20.5) | 数量 24,754(22.5) | 数量 23,760(22.8) | 数量 24,463(19.2) | 数量 21,753(18.7) | 数量 21,291(17.6) | 数量 22,360(16.6) |
| | Cif 117.8 | Cif 111.4 | Cif 109.0 | Cif 109.4 | Cif 119.1 | Cif 130.9 | Cif 174.7 | Cif 143.0 | Cif 116.3 | Cif 112.9 |
| インドネシア | 数量 2,609(2.6) | 数量 2,455(2.3) | 数量 2,729(2.4) | 数量 2,673(2.4) | 数量 1,832(1.7) | 数量 2,418(2.3) | 数量 2,132(1.7) | 数量 2,132(1.7) | 数量 50(0.1) | 数量 — |
| | Cif 67.0 | Cif 64.8 | Cif 61.7 | Cif 69.3 | Cif 72.9 | Cif 79.8 | Cif 136.3 | Cif 104.9 | Cif 86.0 | Cif — |
| トルコ | 数量 929(0.9) | 数量 1,674(1.6) | 数量 2,304(2.1) | 数量 3,572(3.3) | 数量 3,882(3.5) | 数量 2,408(2.3) | 数量 9,220(7.2) | 数量 10,298(8.8) | 数量 14,026(11.6) | 数量 16,495(12.3) |
| | Cif 49.5 | Cif 54.2 | Cif 51.5 | Cif 54.7 | Cif 60.6 | Cif 75.4 | Cif 134.4 | Cif 82.9 | Cif 72.0 | Cif 69.2 |
| その他 | 数量 2,104(2.1) | 数量 2,996(2.7) | 数量 2,231(2.0) | 数量 2,349(2.1) | 数量 1,749(1.6) | 数量 2,616(2.5) | 数量 7,863(6.2) | 数量 6,708(5.8) | 数量 7,454(6.2) | 数量 9,010(6.7) |
| | Cif 164.5 | Cif 135.6 | Cif 126.1 | Cif 128.6 | Cif 138.4 | Cif 157.5 | Cif 199.9 | Cif 152.6 | Cif 129.2 | Cif 126.9 |

資料日本貿易統計
統計品目番号HS1902.11-000(卵入りのもの)/1902.19-093(スパゲッティ)/-094(マカロニ)

表一3 カナダ産ウエスタン・アンバー・デュラム小麦のSBS契約(輸入区分I)価格等

(単位：トン、円/トン)

| 期 | 間 | 数量 | 政府売渡価格 (左の期間の加重平均、税込) | 数量 | 備考 (参考：政府売渡価格税込) |
|------------------|---|---------|--------------------------|----------|----------------------------------------------------------------|
| 平成20年10月～平成21年3月 | | 98,500 | 60,482 | 平成20年10月 | ww67,200,DNS77,500,HRW74,610,cw80,440,ASW76,550 加重平均76,030 |
| 平成21年4月～平成21年9月 | | 102,400 | 50,922 | 平成21年4月 | ww57,880,DNS67,010,HRW59,260,1cw71,890,ASW64,140 加重平均64,750 |
| 平成21年10月～平成22年3月 | | 94,200 | 43,589 | 平成21年10月 | ww47,460,DNS51,600,HRW46,810,1cw54,640,ASW46,820 加重平均49,820 |
| 平成22年4月～平成22年9月 | | 113,800 | 44,658 | 平成22年4月 | ww45,090,DNS49,530,HRW44,470,1cw50,290,ASW44,480 加重平均47,160 |
| 平成22年10月～平成23年3月 | | 104,500 | 55,909 | 平成22年10月 | 5銘柄平均政府売渡価格47,860 |
| 平成23年4月～平成23年9月 | | 126,850 | 65,602 | 平成23年4月 | 5銘柄平均政府売渡価格56,710 |

5 パスタに関するアンケート調査

当協会では、パスタの普及促進事業の一環として、一般消費者を対象に「パスタクッキングスクール」、「パスタクッキングセミナー」を実施しており、この参加者にパスタに関するアンケート調査をお願いしている。これに回答のあった平成19年から平成23年の5年分3,422人の回答を整理すると以下のような結果となった。

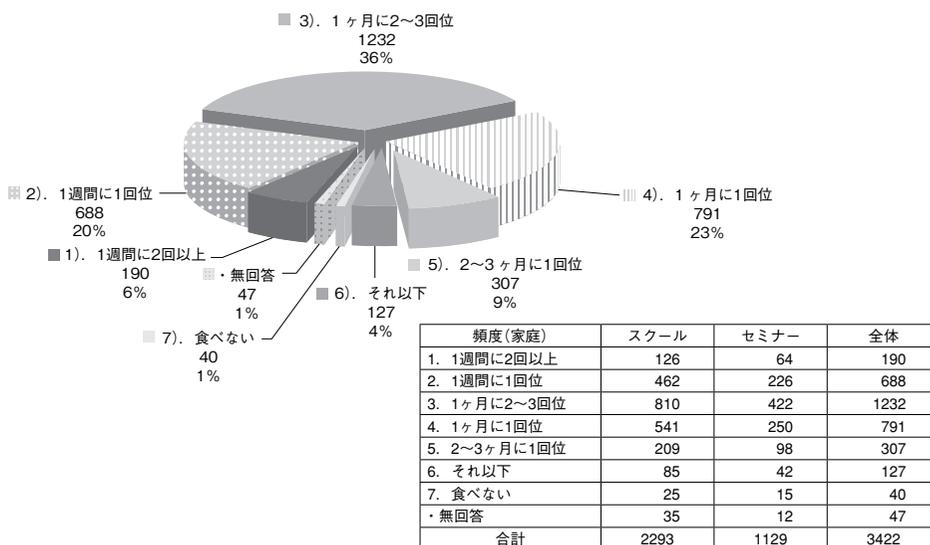
なお、回答者のプロフィールは、性別〔女性91%、男性8%、無回答1%〕年代別〔10代8%、20代17%、30代31%、40代22%、50代以上21%、

無回答1%〕職業別〔学生9%、会社員28%、主婦46%、アルバイト3%、自営業3%、その他9%、無回答2%〕である。

(1) パスタ食の頻度について

① 家庭におけるパスタ料理の頻度は、図-1のとおりとなった。1か月に2~3回位が36%、次いで1か月に1回位が23%、1週間に1回位が20%、2~3か月に1回位が9%、1週間に2回以上が6%等であった。

図-1 2007~2011年 スクール&セミナー
パスタを食べる頻度（家庭）



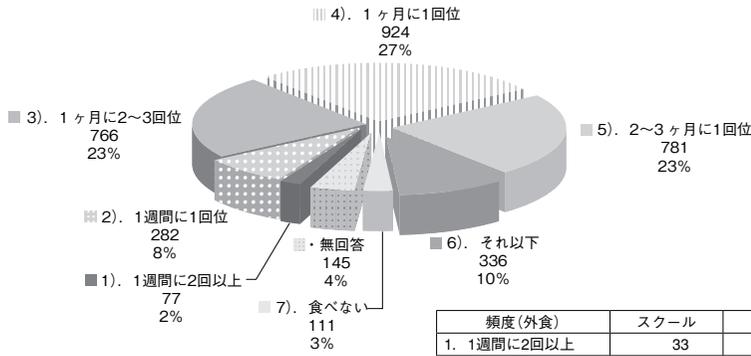
② 外食でのパスタ食用頻度は、図-2のとおり。1か月に1回位が27%、次いで、2~3か月に1回位が23%、1か月に2~3回位が23%、それ以下が10%、1週間に1回位が8%等であった。

(2) パスタのイメージ

他の麺類と比較して、パスタにどのようなイメージを持っているかについては、図-3のとおりとなった(複数回答可)。おいしいが26%、簡単に調理出来て手軽が21%、オシャレな雰囲気を楽しめるが19%、調理(味付け)のバリエーションが豊富が18%等であった。

図一2

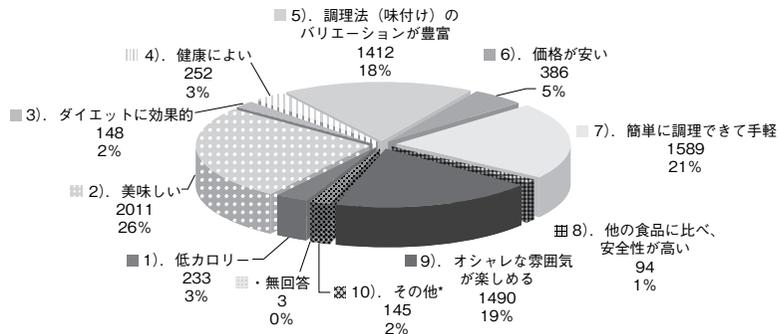
2007～2011年 スクール&セミナー
パスタを食べる頻度 (外食)



| 頻度(外食) | スクール | セミナー | 全体 |
|-------------|------|------|------|
| 1. 1週間に2回以上 | 33 | 44 | 77 |
| 2. 1週間に1回 | 128 | 154 | 282 |
| 3. 1ヶ月に2~3回 | 419 | 347 | 766 |
| 4. 1ヶ月に1回 | 648 | 276 | 924 |
| 5. 2~3ヶ月に1回 | 600 | 181 | 781 |
| 6. それ以下 | 247 | 89 | 336 |
| 7. 食べない | 85 | 26 | 111 |
| ・無回答 | 133 | 12 | 145 |
| 合計 | 2293 | 1129 | 3422 |

図一3

2007～2011年 スクール&セミナー
他の麺類と比較したパスタのイメージ



| イメージ比較 | スクール | セミナー | 全体 |
|---------------------|------|------|------|
| 1. 低カロリー | 155 | 78 | 233 |
| 2. 美味しい | 1324 | 687 | 2011 |
| 3. ダイエットに効果的 | 103 | 45 | 148 |
| 4. 健康によい | 143 | 109 | 252 |
| 5. 調理法(味付け)のバリエーション | 980 | 432 | 1412 |
| 6. 価格が安い | 262 | 124 | 386 |
| 7. 簡単に調理できて手軽 | 1109 | 480 | 1589 |
| 8. 他の食品に比べ、安全性が高い | 70 | 24 | 94 |
| 9. オシャレな雰囲気が楽しめる | 1004 | 486 | 1490 |
| 10. その他* | 95 | 50 | 145 |
| ・無回答 | 3 | 0 | 3 |

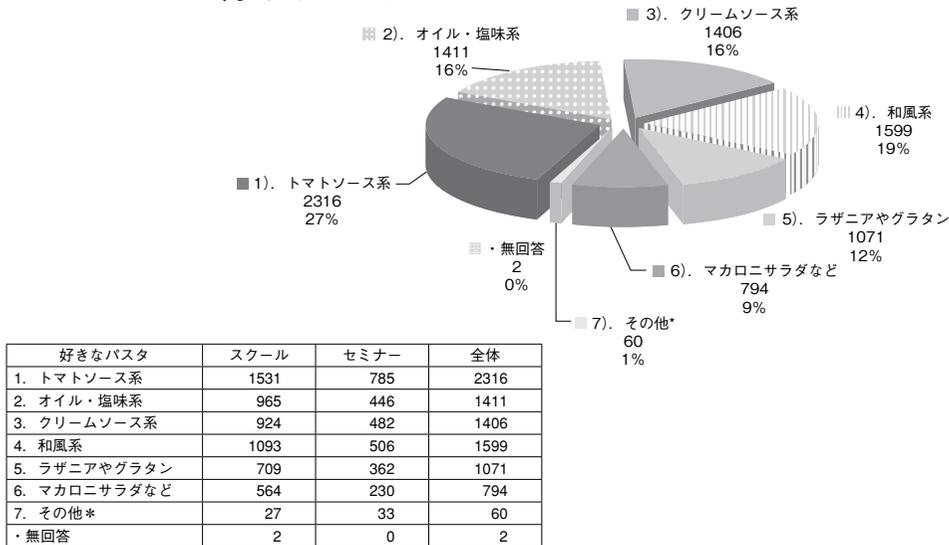
(3)好きなパスタ料理

好きなパスタ料理については、図-4のとおり(複数回答可)。トマトソース系が27%、和風系が19%、オイル・塩味系が16%、クリームソース系が16%等であった。

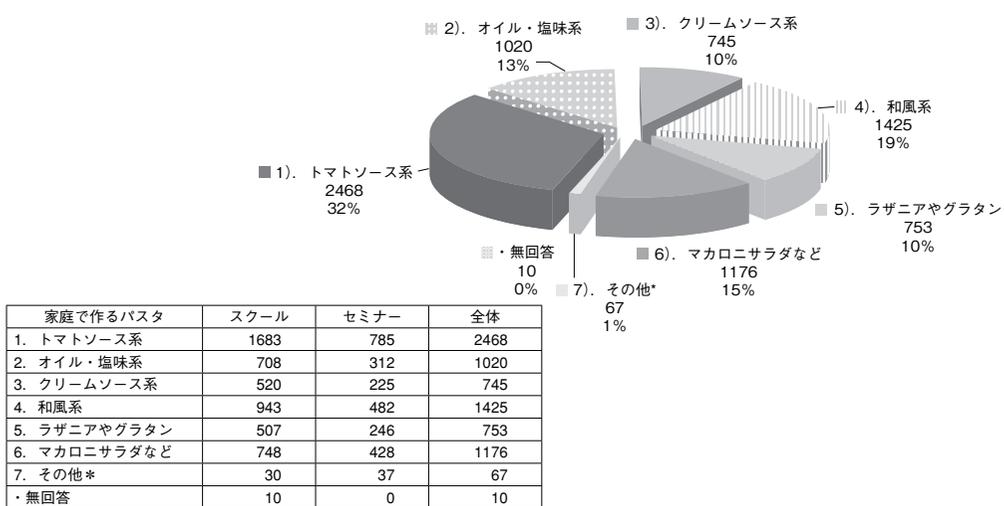
(4)家庭で作るパスタ料理

家庭で作るパスタ料理は、図-5のとおり(複数回答可)。トマトソース系が32%、和風系が19%、マカロニサラダが15%、オイル・塩味系が13%、クリームソース系が10%等であった。

図一4 2007～2011年 スクール&セミナー
好きなパスタ



図一5 2007～2011年 スクール&セミナー
家庭で作るパスタ



(1)～(4)の多く回答のあった項目を総合すると次のような家庭でのパスタ食が浮かび上がる。

パスタ料理はおいしく簡単に調理ができるため、月に2～3回家庭での手作りで、トマト系ソースが好み、月に1回程度パスタ料理を食べに出かける。

6 家計調査のパスタ購入量

総務省統計局では、平成21～23年平均の家計調査品目別データ(二人以上の世帯の一世帯当たり年間購入数量)を都道府県庁所在市及び政令指定都市別を公表している(表-4)。これのスパゲッティ年間購入数量をみると、購入量の多いのは、第1位川崎市、第2位札幌市、第3位

表一4

都道府県庁所在市別1世帯当たり購入数量（単身世帯を除いた二人以上の世帯）
平成21～23年平均※総務省の家計調査から



横浜市、第4位東京都区部、第5位が盛岡市と続く。一方、購入量の少ないのは、和歌山市、堺市、徳島市、高知市、金沢市となっている。また、購入量の全国平均(3,272グラム/年)より多い地域、少ない地域を見るとスパゲッティの購入量は「西低東高」の傾向が見受けられる。なお、購入量の多い川崎市(4,216グラム)は購入量の少ない和歌山市(2,217グラム)の約2倍となっている。また、地理的にみると関西が少なく関西から離れるほど消費量が多くなる傾向がある。スパゲッティ購入数量の「西低東高」の要因はわからないが、さいたま市が平成17～平成19年の平均値で購入量が全国1となり、その要因について、ネット上にあった分析では「共働きが多く調理が簡単素早くできるためパスタの購入量が多いのではないかと」していたが、これも一つの要因かもしれない。なお、日本の一人当たりパスタ年間消費量は2.3キログラム(H23年国内供給量294千トン÷総人口1億2,779万9千人=2.3kg)で、パスタ本場のイタリア(28kg/年)の1/12程度。今流行りの雑学知識としてパスタの購入量は納豆の購入と相関が高いといわれている。

7 当協会の活動

当協会では、国産パスタの普及のために長年にわたって実施しているイベント行事がある。一つは昭和51年から36年間継続して実施している「パスタクッキングスクール」で、著名なパスタ料理講師がパスタ料理を実演し、その後に受講者が自ら調理し実食するスタイルのクッキングスクールもの。もう一つは、昭和61年から26年間実施している「パスタ大学」で、平成11年までは外食産業レストラン経営者等を対象に経営戦略セミナーを、平成12年からは管理栄養士等を対象に医学・栄養学の面からのセミナーを実

施している。これらの実施開催回数は、パスタクッキングスクールが延べ765回、パスタ大学が延べ53回である。双方ともに好評のことから今年度も実施することにしている。このほかに、伝統・郷土・ブランド野菜で作るパスタクッキングセミナー、街頭イベント(パスタサンプリング)、幼稚園パスタサンプリング、パスタレシピの募集とパスタレシピコンテストを実施している。これらの活動は地道であるが「継続は力」となってパスタ食の普及啓蒙に寄与しているものと思っている。

なお、パスタクッキングスクール等の参加者にパスタ食の健康面からの有用性を映像でわかりやすく紹介しており、簡単に要約すると次のとおり。

- ① パスタの原料であるデュラム小麦は、通常の小麦よりもタンパク質の含有量が多く、グルテンも柔軟性に富んでいるため、ゆでるとプリプリとした弾力と歯応えが生まれる。
- ② 生活習慣病予防の理想の食事パターン「地中海沿岸の食事」が良いと言われている。パスタ調理に欠かせないオリーブオイルは、不飽和脂肪酸が多く含まれ、血液中のコレステロールの量をコントロールするので高血圧を抑制する作用がある。
- ③ パスタの調理は魚介類トマト野菜との組み合わせでバランスの良いものとなる。
- ④ パスタは、体内代謝において血液中で血糖値をゆっくりと上昇させ、生活習慣病予防にプラス効果。インスリンの分泌を必要以上に刺激することなく血糖値を上昇、肥満を防止。炭水化物を主成分とすご飯に比べてもブドウ糖になるまでの消化時間がゆっくりで血糖値を急激に上昇させない。これはインシュリンを急激に分泌させないためと言われている。

8 おわりに

ご承知のとおり我が国の総人口は減少に転じているが、パスタの喫食回数は増加しているものとみている。喫食増加の要因としては、①パスタはグラタンや冷製スパゲティ、サラダなど温かいメニュー、冷たいメニューのどちらにも使用できる食材であり、比較的季節の影響を受けにくいこと②パスタは日常の食べ物として定着しており、かつての「イタメシブーム」を経験した世代が年齢を重ねてきていることもあって、若い世代だけに偏ることなく、どの世代にも食べられていること③肉・野菜・魚介類ともよく合う食材であり、ソースの種類を変えることによって、バラエティに富んだメニューを提供することができること等が考えられる。

当協会では、国内供給量の30万トン超えを目指しているが、前述のとおり、為替相場の円高、ユーロ安の影響から輸入し易い環境下であり、国産パスタは輸入製品との厳しい競合の中にある。国産パスタの高品質、安全性、利便性など輸入品との違いを消費者に訴え普及推進に努めている。

食品業界の関心事項の一つにTPPがあるが、当協会においても今後どのようなようになるのか推移を注意深く見守っている。議論の趨勢によってはパスタ業界に大きな影響を及ぼすことになる。特に、内麦振興対策のマークアップ負担が残ったまま貿易非関税の原則のみが適用されると国内生産が成り立たなくなる。国内産業の維持、雇用の確保の観点も踏まえた慎重な検討をお願いしたい。このことについては、関係団体とも連携しつつ対応を行うことにしている。

総理府国勢調査では、人口が緩やかに減少するなかで、一般世帯数は増加しており、今後もこの傾向が続くことが予想されている。このうち、単身世帯の増加とりわけ高齢者単身世帯が

増加している。世帯員数の減少は消費者の購買行動において、1回当たりの購買額の減少、量目の減少・少量パックへのシフトしており、消費者の食行動や購買行動に大きな影響を及ぼすことが予想されている。お一人様用へのきめ細かな対応が今後の国産パスタの伸びどころかも知れない。

((社)日本パスタ協会)
専務理事

製粉と小麦粉のお国ぶり

—その19—

ブラジル

★国内産小麦の増産は進んだが、輸入小麦への依存度がさらに増すか

小麦消費量は南米大陸で最も多く、しかも増加傾向にあり、年に約1100万トン(うち食用は約900万トン)である。2002年以降の小麦増産計画によって、国内での生産量がそれまでの300万トンくらいから500~600万トンにほぼ倍増したが、それでも足りないので600~700万トンをアルゼンチン(約60%)、ウルグアイ(約16%)、及び非メルコスール国(カナダなど、約14%)から輸入する。ブラジルの通貨が強くなり、輸送コストも安いので、国内市場では輸入小麦の方が国内産よりも割安である。

小麦の90%はParana、Rio Grande do Sul、及びCatarinaの南部3州で乾季に冬小麦として栽培される。中でもParana州の生産量が最も多い。人口増と飼料用消費量増への対策として小麦の生産地域を拡大して増産に努めてきたが、新しい地域では多量の施肥が必要であり、生産コストがアルゼンチンやアメリカの2倍にもなる。そのような地域は天候も小麦作には適しておらず、早魃、洪水、または霜害を受けやすい。価格と政府補助金の関係でトウモロコシやカノーラに作付け転換する農家が多いこともあって、国内産小麦の増産もそろそろ頭打ちと思われる、現状維持も危ぶまれる。

★1人当たりの小麦消費量はあまり多くないが、やや増加傾向

ブラジル製粉協会(Abitrigo)によると、小麦粉の国内生産量は年々増加して2011年には796

万トンになったが、輸入量も増加傾向で72万トン(その大部分がアルゼンチンから)であり、全供給量は868万トンである。人口(1.91億人)は多いが、1人当たりの年間小麦消費量は約50キログラムなので、多いとは言えない。それでも1人当たりの消費量は安定ないしやや増加傾向にあり、減少傾向の米の約38キログラムより多い。

粉採取率は地域によって差があり、主として北米産の小麦を原料として使う北部では78%くらい、国内産やアルゼンチン産を使う南部では70%程度である。政府の食品規格では、採取率と灰分含量によって全粒粉、普通粉、及び特等粉が定義され、セモラとセモリナは粒度によって定義されている。微生物数、グルテン含量、酸度、水分、及び灰分含量についての基準がある。小麦粉には、灰分量が最高0.5%の特等粉と平均灰分が0.75%の普通粉があり、粉の色とグルテンの強さが主な品質競争項目である。

Abitrigoの2011年の推定では、小麦粉の約54%がパン用、約10%がビスケット用、約14%がマサ用、約14%が家庭用、約8%がその他用である。パスタにもパンと同じ小麦粉を使うので、パン用とその他にパスタ用が含まれていると考えられる。以前のデータを参考にすると、パン用が約45%、パスタ用が約10%と推定される。

★製粉会社は集約化が進んだが、輸入小麦粉が経営を圧迫

小麦製粉能力は年に950~1000万トンと推定され、南米大陸では最大である。製粉業の統廃

合が進み、Abitrigo によると、1967年の489工場から年々減少して現在は239工場になったが、そのうち稼働中の工場は140～189と推定される。その8割近くが南部州にある。Abitrigoの会員は44社である。

大手製粉会社は、Moinho Pacifico社、Bunge Alimentos社、J. Macedo社、Predileto社、Moinho Anaconda社、及びDias Branco社である。100年の歴史があるBunge Alimentos社が最大の製粉会社で、8工場を持つ。Moinho Pacifico社も大手で、サンパウロから96キロメートルのSantos工場を2003年に能力拡張し、年間挽砕能力が112万トンになった。Dias Branco社はビタミンを強化した小麦粉を製造しており、8年ほど前にBahia州政府と共同でパンの栄養価を高める検討をした。Cargill社は40年以上も前からブラジルで穀物関連の事業を展開しているが、21世紀になってから2つの製粉工場を買収して製粉業に参入した。規模は小さいが大手食品メーカーのVilma Foods社の一部門であるVilma Alimentos社は工場増設を完了したばかりで、3ミルを持ち、1日の合計製粉能力が700トンで、最新ラインには最近国内で規制が厳しくなったマイコトキシン対策も施されている。

アルゼンチンからの輸出補助金に後押しされた小麦粉の輸入が増加傾向で、2010-11年度には前年度比14%増加して全小麦粉の約8%になり、量と価格両面で製粉業界を苦しめている。過去に何回か、法律で小麦粉に他の粉を強制的に一定量混ぜることが行われ、2003年にもキャッサバの粉を混ぜることが議論されたが、製粉業界などの反対で実施されなかった。

★小麦粉加工品は多様化の方向

小規模なベーカリーが約2万5千もあり、工業規模はまだ数社だが、工業規模で製造したパン

の販売が伸びて、小規模ベーカリーの製品の販売は減る傾向にある。小規模ベーカリーの主要製品はバゲットに似た形のパンである。チョリーウッド法による短時間製パンが主流で、アスコルビン酸が使われる場合があるが、臭素酸カリウムの使用は法律で禁止されている。スーパーマーケットで焼きたてのバゲットタイプのパンを販売するケースも増えている。工業規模の工場は、包装スライス食パンをブランドで販売し、その他に多種類の付加価値が高い製品を製造している。先進国に比べると製品数は多いとは言えないが、卸売り製パン会社の製品数は増える傾向にある。

Grupo Bimbo社が株式の大半を持つNutrella Alimentos社は、南部で最大の製パン会社で、サンパウロとRio Grande do Sulに工場がある。Grupo Bimbo社は2001年にPlus Vita社を買収してパン市場に参入したが、Nutrella Alimentos社の買収でシェアを拡大した。

大型の Pasta工場は5～6あり、Pastaの消費は安定している。パン用と同じ小麦粉を使っているが、粒度が細かい普通のパン用粉からでもPastaを作れる技術が開発されたためと言われている。

クッキー、クラッカーなどの菓子類も幅広く作られ、ファストフードチェーンによってピザなどのスナック類も消費を拡大している。

法律によって、パン、クッキー及びPasta製品については定義があり、微生物数、酸度、及び蛋白質、でん粉、水分及び灰分の含量の限界が定められている。一般的なパンの場合、水分は30%以下、蛋白質は11.4%以上である。

(財団法人製粉振興会参与、農学博士 長尾精一)

簡単おいしい「小麦粉ごはん」

ひらの あさか

忙しい朝のクイックパンレシピ

「野菜も食べたいけれど時間がない」そんな朝におすすめなのが「BLTパンサラダ」。リーフレタスは洗って水をきり、ちぎっておく。トマトはざく切りにして、粒マスタードとマヨネーズ、しょうゆ少々を加えたもので和えておく。ベーコンはカリッと焼く。イングリッシュマフィン、オーブントースターで焼いて食べやすい大きさに切る。器に材料を合わせて、好みで市販のドレッシングを加えてよく混ぜながらいただく。

「にんじんサンド」にんじんはせん切りにして塩をかけてしんなりさせ、水気を絞る。にんじんが塩辛いようなら水に放して水気をよく絞る。玉ねぎは薄切りにして水にさらす。ツナ缶はできるだけ油の少ないものを用いて、にんじん、玉ねぎと合わせ、レモン汁、コショウ、オリーブオイル、好みで市販のぽんずと粒マスタードを加え、よく和える。焼いた食パンに好みでバターを塗り、にんじんサラダを挟む。サラダは前の晩につくっておけば味がしみておいしい。ツナ缶に油分があるようなら、オリーブオイルは省いてもよい。

煮る、ゆでるだけ「簡単そうめん」

「もずくそうめん」そうめんはあらかじめゆでて水に放ち水気を含みつつビニール袋に入れて冷蔵庫で冷やしておく。食べる時にざるで水気を取ったそうめんを器に入れ、市販のそうめんつゆ(冷やしておいたもの)をかけて、味つけもずくをその上にのせ、好みでおろししょうがを添える。食欲のない暑い日にぜひおすすめの冷やしそうめんです。

「冷やし中華風ひやむぎ」ハムは薄切り、きゅうりは斜め薄切りにする。ひやむぎをゆでて流水にくぐらせ、水気をきってから器に移し、市販のストレートめんつゆ、または冷やし中華スープをかけてから、ハム、きゅうり、市販の錦糸卵を上に乗せて、好みで練り辛子を添える。

冷たいものもよいですが、真夏にもおすすめしたいのが「鶏団子の豆乳にゆうめん」鶏ひき肉に長ねぎ、しょうがのみじん切り、しょうゆ、酒を少々入れて練り、片栗粉を合わせ団子状にする。だし汁に豆乳、みりん、しょうゆを合わせて鶏団子を入れ火を通し、そうめんをここへ入れ、直煮してらを3cmくらいに切って入れ、火を止める。器に移して粗びきコショウを好みで加える。

フライパンで「簡単焼きそば」

「ミーゴレン(インドネシア風焼きそば)」鶏むね肉は2cm角に切る。キャベツはざく切り、にんにくは薄切りにする。フライパンにサラダ油を熱して、鶏肉、むきえび、にんにく、キャベツを炒め、塩、コショウを加えて火が通ったら、中華蒸しめんを加えてさらに炒め、コチュジャン、トマトケチャップ、しょうゆ、オイスターソースを合わせた調味料と水少々を加えて味を絡める。炒めたそばを器に移し、半熟目玉焼きをのせる。

「ひき肉焼きそば」長ねぎ青い部分とにんにくはみじん切り、フライパンにサラダ油をひいて豚ひき肉を炒め、ポロポロしてきたら長ねぎ、にんにくを加えて、豆板醤、オイスターソース、しょうゆを加える。ここに中華蒸しめんを入れて焼くように炒め、液体鶏ガラスープと水を合わせて加え、水気を吸わせる。器に移し、白髪ねぎをのせ、好みでラー油を上からかける。

「豆苗と豚バラ肉の焼きそば」にんにくはみじん切り、豚バラ薄切り肉は食べやすい大きさに切っておく。フライパンにサラダ油を熱してにんにくと、豚バラ肉を炒め、塩とコショウを入れて、蒸し焼きそばをほぐして入れさらに炒める。ここへ豆苗を加えて炒め、みりん、オイスターソースを加えて炒める。たっぷりの豆苗はシャリ感が残るように炒めた方がおいしい。

手巻き感覚で「薄焼き巻き」

「薄焼き」のベースは薄力粉に塩、水、オリーブオイルを合わせてとろとした生

地をつくり、フライパンにサラダ油をひいて両面に焼き色がつくまで焼く。ちょうど春餅のような感触の小麦粉生地です。

「焼豚サラダの薄焼き巻き」薄焼き生地にサニーレタスをちぎってのせ、焼豚は細切りにしてたれを絡ませてのせ、クリームチーズをのせ、いりごま、きゅうりの斜め細切りをのせて巻く。

「ささ身とコールスローの薄焼き巻き」鶏ささ身は包丁で縦に切れ目を入れてから耐熱容器に移し、酒をふり蓋をして火を通す。粗熱が取れたら縦に細かく裂いて市販のぼんずで和えておく。キャベツ、にんじんはせん切り、玉ねぎは薄切りにする。ボウルに野菜を入れ、塩をふりしんなりさせる。水気を絞り、市販のコールスロードレッシングに好みでレモンを絞りよく混ぜる。いずれも具材は冷蔵庫で冷やしておく。薄焼き生地にコールスロー、鶏ささ身のぼんず和えをのせ、好みでマヨネーズ、粗びきコショウをかけて汁気がこぼれないようにしっかり生地に巻いて食べる。

「鶏照り焼きの薄焼き巻き」鶏もも肉は水気をペーパータオルなどでよくふく。フライパンにサラダ油をひき、鶏もも肉の皮の方から焼いていき、両面を焼き余分な油をペーパータオルでふき取り、みりん、酒、しょうゆ、砂糖を合わせた調味料を加えて、鶏の両面に調味料をよく絡ませて火からおろす。粗熱が取れたら、薄焼き生地にサラダ菜、焼のり、鶏照り焼きは食べやすい細さに切ってのせ、好みで辛子をのせ、白髪ねぎをたっぷりのせで巻く。

(食文家)

業界ニュース

★全粉協第52回通常総会を開催

協同組合全国製粉協議会(会長 志賀弘嗣)は、6月21日(木)東京・KKRホテル東京において第52回通常総会を開催しました。

総会では、平成23年度事業報告及び決算関係並びに平成24年度事業計画及び収支予算等について提案され、原案通り可決承認されました。

また、理事の補選が行われ、新たに理事として川久保圭三(川久保製粉)が選任された。

総会終了後、農林水産省、関係団体、報道関係者等多数のご臨席の下、懇親会が開催され、志賀会長のご挨拶、農林水産省生産局今城農産部長、下嶋製粉協会会長等の来賓ご挨拶、鈴木製粉振興会理事長の乾杯の音頭で和やかに懇親会が進められ時間を超過するも中小の結束を誓い合い、盛会裏に終了しました。

【東京・高橋】

★七夕・そうめんの日は

—そうめん「願いを込めて」—

全国乾麺協同組合連合会(会長高尾政秀)では、7月7日・七夕をそうめんの日と設定している。

七夕には年に一度彦星と織姫が天の川を渡って出会うという伝説。七夕は五節句の一つ。七夕・そうめんの日の設定は、平安時代の宮中儀式や作法などを集大成した「延喜式」に七夕の儀式に供え物の一つとして、そうめんの原型と言われる索餅(さくへい)が供えられ食したとの記述から設定した。また、七夕にそうめんを食べると「芸事が上達する」、「健康をかなえる」、彦星と織姫の逢瀬にあやかって「恋の成就」などそれぞれ願いを込めて「そうめん」を食べたという説もある。そこで、今年も各地のそうめんを用意。願いを叶えるには「そうめん」をと7月6日製粉会館玄関で500名(1人2束)に、7日・七夕には、銀座数寄屋橋公園で2000名(1人2束)をサンプリング。両日ともサンプリング開始前に長蛇の列、

製粉会館ではサラリーマン、銀座数寄屋橋公園では、土曜日とあって家族連れが多かった。主催者が心配した天気。梅雨の真ただ中、雨が降って当然。天の助けか、両日とも雨は避けられた。7月7日七夕の本番は、特に天気予報とにらめっこ。天気予報は、午前中は晴れのち曇り、サンプリング開始時の正午頃は、雨の予報。そして、当日。作業開始の9時、今にも雨が落ちてきそうな天気。仕方なく予定していたサンプリング開始時刻正午を少し早め、11時45分からスタート。天気が不順なため買い物客の出足が心配された。しかし、予想に反して多くの買い物客に予定通りサンプリングできた。サンプリング終了時には、自然発生的に会場に拍手。全国乾麺協同組合連合会では、今年の3.11東日本大震災以降、東日本が節電。乾めんは「常温で保存」ができ、そうめん・ひやむぎはその名称を聞いただけで「涼」があり、食べて「涼あり」と訴えてきた。今年は、節電・日本列島となった。例年になく乾めん業界が七夕に願いを込めて、

業界ニュース

節電には「そうめん・ひやむぎ」を食べていただくよう、大手製粉各社、関係先など多くから応援を貰い、サンプリング会場は燃えていた。場外の話題として、「七夕・そうめんの日」が一步前進。コンビニのローソンが「七夕そうめん」の

キャンペーンを今年から始めた。これから更に広く、七夕といえば「そうめん」と言われますように…と七夕の短冊に願いを掛けた。

【東京・安藤】



—「そうめん」貰っちゃった—



—何処の産地の「そうめん」かな—





世界 (1) 2012/13年度の小麦は生産が6.65億トン、消費が6.82億トンで、期末在庫は1.82億トン

に減る。

国際穀物理事会(IGC)の2012/13年度小麦需給予測を[表1]に示した。生産は前年度比3,000万トン減の6.65億トン、消費は700万トン減の6.82億トン(うち、食用は400万トン増の4.65億トン)で、期末在庫は1,700万トン減の1.82億トン、主要輸出国期末在庫は1,300万トン減の5,800万トンの見込み。

(IGC-GMR・423/12)

(2) 2012/13年度の小麦貿易量は前年度比890万トン減の1.346億トン。

[表2]はIGC予測の小麦貿易量で、2012/13年度総貿易量は過去最高の前年度より890万トン減の1.346億トンである。減少はトウモロコシ供給量増で飼料用小麦の買付けが前年度の1,800万トンから1,310万トンに減ることが主因である。エジプトは在庫と生産増で70万トン減の1,010万トン、アルジェリアも生産増で110万トン減の510万トンを輸入する。黒海地域の生産量減でロシアの輸出は950万トン減の1,200万トンの見込みだが、アメリカは450万トン増の3,200万トン、カナダは30万トン増の1,860万トンの輸出が予測される。

(IGC-GMR・423/12)

(3) 2011/12年度の小麦粉貿易量は前年度比77万トン増の1,270万トン。

IGC予測の2011/12年度小麦粉貿易量を[表3]に示した。ウズベキスタンが150万トン(10万トン増)、イラクが130万トン(30万トン増)、アフガニスタンが110万トン(20万トン減)、インドネシアが110万トン(変化なし)、ブラジルが95万トン(変化なし)輸入する。輸出はカザフスタンが330万トン(77万トン増)、トルコが270万トン(34万トン増)、アルゼンチンが130万トン(1万トン増)、EUが130万トン(15万トン増)の高レベルを維持する。

(IGC-GMR・422/12)

(4) 2012/13年度のバイオ燃料用穀物消費量は1.499億トン、小麦は740万トン。

[表4]はIGCによる穀物の工業用消費量、[表5]はバイオ燃料用穀物消費量である。2012/13年度の工業用穀物消費量は前年度比740万トン(2.4%)増の3.116億トンで、過去5年間に平均23%伸びた最大用途のバイオ燃料用が前年度比1.8%増の1.499億トン(特に、アメリカが微減の1.285億トン)に留まったことが大きく影響した。でんぷん用は380万トン増の1.96億トンで、醸造用は微増した。小麦のバイオ燃料用消費は740万トンに増える。

(IGC-GMR・422/12)



アメリカ (1) 2012-13年度の小麦は生産が前年度比640万トン増の6,080万トンだが、消費と輸出も増えるので期末在庫はやや減。

6月1日現在の2012-13年度小麦需給を[表6]に示した。生産量は増えるが、国内消費が106万トン、輸出が259万トン増えるので、期末在庫は前年度を少し下回る1,889万トンである。

(World-Grain.com・June 13/12)

(2) コナグラ製粉が小麦粉の45キログラム包装を中止。

ConAgra製粉は小麦粉の100ポンド(45.36キログラム)包装を6月までに中止し、軽い包装に移行する。重いものを扱うことによる自社及び得意先の従業員の怪我の危険を低減するための措置である。

(World-Grain.com・May 31/12)

(3) ビンボ製パンがダラスに新工場建設を開始。

Bimbo Bakeries USAは1月に1工場、3月に3工場の閉鎖を発表し、一方で、テキサス州ダラス近郊に新工場建設を開始した。

(MBN・91-6/12)

(4) 丸紅株がGavilon社を取得。

丸紅株は5月29日に、Gavilon持株会社(ネブラスカ州オマハ)を36億米ドルで買取することで合意したと発表した。丸紅株は年に5,500万トンの穀物(これまでの2倍以上)を扱うことになると予想される。

(World-Grain.com・May 29/12)

(5) 2012年5月の小麦生産者手取り価格は前月比51セントの大幅安。

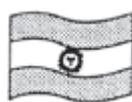
[表7]は合衆国農務省発表の全小麦平均生産者手取り価格である。5月は前月比51セント安の6.60ドル/ブッシェルで、前年同月比1.56ドル安。冬小麦は6.18ドル(前月比29セント安、前年同月比1.62ドル安)、デュラム小麦は8.75ドル(同43セント安、及び89セント高)、デュラム小麦を除く春小麦は7.61ドル(同34セント安、及び1.24ドル安)で、前月比はどの種類も大幅下落である。

(World-Grain.com・June 6/12)

(6) 4月の白パン価格は上昇し、消費者物価指数も0.3上昇。小麦全粒粉パンは下落。

合衆国労働省によると、2012年4月の型焼き白パン平均小売価格は1ポンド(約454グラム)当たり142.6セント(前月比3.1セント高、前年同月比0.6セント高)だが、小麦全粒粉パンは201.9セント(同3.7セント安、及び9セント高)である。[表8]は合衆国労働省発表の4月の消費者物価指数(1982~84年平均を100)である。穀物及びベーカリー製品全体の指数は268.0で、前月比0.3、前年同月比4.5上昇した。白パン以外のパンは前月比で0.5、前年同月比で3.0の上昇で、白パンは前月比0.3、前年同月比4.2の上昇だった。家庭で消費する全食品の指数は231.7で、前月比0.1、前年同月比3.2の上昇である。

(MBN・91-7/12)



アルゼンチン 小麦輸出割当量を引上げ。

政府は国内の供給量確保と価格安定のために設定している小麦輸出货量の上限を大幅に引上げる。農業団体代表者は、今年的小麦播種には間に合わないかと冷やかな反応。

(World-Grain.com・June 20/12)



イギリス 超音波によるベーカリー製品の品質と栄養価改良技術の開発が進展。

大手食品添加物メーカーのMacphie社に、Heriot-Watt大学、Fosters Bakery、Mono Bakery Equipmentなどが加わった超音波利用による製パン改良技術の開発が進み、特許取得、実用化目前である。政府の50の研究プロジェクトの一つに採用され、資金援助も得ている。

(EB・121/12)



**オーストラリア AWB社が
2011-12年度小麦の推定プール収
益を増額。高蛋白小麦は減額。**

AWB社は6月4日に2011-12年度の基準銘柄小麦の推定プール収益(トン当たりFOB、除くGST)をA\$2増額した。APW小麦はWAプールでA\$265、SAプールでA\$259、東部プールでA\$260、WAプールのANWヌードル小麦はA\$278に。高蛋白小麦は北米の豊作予想でA\$2~10減額する。

(World-Grain.com・June 4/12)



**カザフスタン 期末まで小麦輸
出に補助金。飼料用穀物生産を奨
励。**

5月23日発表で、2011/12年度に1,300万トンの穀物輸出達成のために、年度末(6月末)まで、黒海とバルト海の港への出荷分にトン当たり27米ドルの補助金を支給する。近東と中央アジアへの輸出支援のためのインフラ投資に加え、小麦の生産過剰回避のためにトウモロコシ、油糧種子などの飼料用穀物の栽培を奨励。

(IGC-GMR・422/12)



**カナダ 2011/12年度産小麦の
生産者初期支払額を上積み。**

カナダ小麦局は6月26日に、2011/12年度産小麦の生産者初期支払額の第3回増額を発表した。主な銘柄、等級の蛋白量別の支払額を[表9]にまとめた。これらはバンクーバーまたはセントローレンス渡しのトン当たりカナダドルである。

(World-Grain.com・June 7/12)



**サウジアラビア 軟質小麦を初め
て輸入か。製粉業の民営化も検討。**

伝統的に硬質小麦だけを製粉してきたが、ビスケットなどの菓子用としての軟質小麦へのニーズに応じて、それを輸入するらしい。製粉工場は硬質小麦用に設計されてきたが、最近建設の工場は硬質と軟質両方に対応できる。2011年の小麦国別輸入比率は、ドイツが36%、カナダが26%、アメリカが14%、オーストラリアが12%だった。政府の穀物サイロ・製粉機構は傘下の製粉工場の民営化も検討している。

(World-Grain.com・June 9/12)



**中国 2005年からの5年間で小
麦粉生産量は1.535倍に。**

第11次5か年計画中の主要食品グループ別の生産量と伸び率を[表10]に示した。2005年に比べ2010年の生産量は、米が366.7%伸びて8,244.4万トン、小麦粉が153.5%伸びて1.1185億トン、ケーキとクッキーが250.8%伸びて150.5万トンで、年平均伸び率はそれぞれ36.1%、20.4%、28.5%である。2010年の食品産業の総出荷額は6.1兆円で、産業全体の8.8%を占める。第12次5か年計画(2011~2015年)では、食品産業全体の出荷額が年率15%伸びて2015年には12.3兆元に、利益+税金は12%伸びて1.88兆元と予測される。栄養強化粉や小麦全粒粉なども注目されるようになった。

(CFW・57-3/12)



**ドイツ (1)2011年のパン用穀
物挽砕量は779万トンで前年比3.6
%減。1人当たり穀粉消費量も減少。**

[表11]のように2011年のパン用穀物挽砕量は779万トンで、前年比3.6%減(普通小麦は695万トンで3.8%減、ライ麦は85万トンで1.4%減)

である。普通小麦のうち国内向けは638万トンで3.1%減、輸出向けは57万トンで11.3%減である。ライ麦は国内向けが1.5%減だが、輸出向けは1.6%増加した。小麦粉生産量は554万トン、粉歩留りは前年より少し高い79.8%である。普通小麦挽砕量は2001年以降、増加傾向だったが、前年の大幅増加の反動か、2011年は減少した。国内向け普通小麦挽砕量もほぼ同傾向だが、輸出向けは減少している。2011年のパン用穀粉生産量は6,292,637トン(前年は6,522,472トン)で、普通小麦の粉が5,543,316トン、ライ麦の粉が749,321トンである。デュラム小麦製品は315,200トン(同319,800トン)だった。製粉製品と二次加工製品の輸出入量を粉換算で加減して国内の実質消費量を求め、6月時点の人口81,767,982人で割って、1人当たりの穀粉消費量を計算した。小麦粉は58.2キログラム(同58.7キログラム)、ライ麦粉は7.9キログラム(同8.3キログラム)で、合計穀粉消費量は66.1キログラム(同67.0キログラム)である。

(MM・149-11/12)

(2) 5月の小麦価格は少し上昇したが前年同月より安い。4月の小麦粉価格は下落。

[表12]は国内主要市場平均の5月の小麦、ライ麦、及びふすまの価格である。小麦とライ麦は前月より上昇したが、前年同月より低い。小麦ふすまは前年同月より高いが、下降傾向である。[表13]は4月の小麦粉とライ麦粉の製粉工場出荷価格指数で、いずれも下降傾向である。[表14]は家庭用小麦粉(タイプ405)の消費者価格で、格安粉、銘柄品共に前年同月より高い。

(MM・149-11/12)

(3) バイエル社が欧州小麦育種センターを開設。

Bayer CropScience社がGaterslebenに欧州小

麦育種センターを開設した。中欧市場向けの高収量で特性が優れた品種や、早魃や高温耐性の品種開発を行う。同社は5月にアメリカのネブラスカ州に北米小麦育種研究所を建設すると発表したばかりだが、近い将来、他地区にも同様の研究所の開設を計画中で、バイオ技術を駆使して、育種速度を加速するという。バイエル社は作物保護剤と種子の開発に世界全体で毎年約7.2億ユーロを投資しており、2015年までに8.5億ユーロに増額する予定だが、最初の品種の導入は2015年以降らしい。

(World-Grain.com・June 7/12)



パキスタン 小麦の消費量は多いが、消費パターンが変化。

小麦は年に約2,400万トン生産される最大の作物で、伝統的な窯(タンドール)で焼く平焼きパンが主食である。小麦の1人当たり年間消費量は約124キログラムと推定され、世界でもトップレベルで、カロリーの約72%の供給源である。米は綿花に次ぐ第3の作物で、約55%が輸出され、残りが国内で消費されるが、主食ではない。約1,000の製粉工場があり、人口の約40%にマイダ(72%歩留り粉、パン、その他用)とアタ(82%歩留り粉、平焼きパン用)を供給している。農村に住む人々(人口の約60%)は家庭で挽いたアタで平焼きパンを作って食べる。1949年に19工場で発足したパンジャブ製粉協会が大きく発展し、現在のパキスタン製粉協会になり、会員数も915社(1日の製粉能力は77,275トン)に増えた。政府が小麦の一部を買い上げて保有し、必要に応じて製粉工場に払い下げ、年間を通して原料小麦を確保できるよう配慮がされている。西洋からファストフードチェーンが導入され、都会を中心に高歩留りの粉から低歩留りの粉へ、平焼きパンから西洋風

パンへと消費者志向に変化の兆しがある。家庭で粉碎しないで市販粉を買う消費者も増え、製粉業界も変化しつつある。

(WG・30-5/12)



ブラジル (1) ビューラー社が
新工場を開設。

Bühler社は4月、Joinvilleに新工場を開設した。主に穀物加工用の機械と乾燥機を製造する。将来の南米大陸での事業展開の基地にしたいと考えている。

(World-Grain.com・May 25/12)

(2) 中型のVilma Alimentos社がマイコトキシン低減対応の3ライン目の増設を完了。

大手食品製造のVilma Foods社の一部門のVilma Alimentos社は小麦粉市場でのシェアは2%だが、品質重視の幅広い製品で勝負している。1959年にミナスジェライス州Contagemに製粉工場を建設し、1979年に2ライン目を、2012年2月に3ライン目を完成させた。新ラインの1日の挽砕能力は160トン、3ライン合計では700トンになった。今回の建設費用は800万米ドルで、ビューラー社に建設を委託した。これまでの2ラインは硬質小麦とデュラム小麦専用だが、新ラインは軟質小麦用で、パン用粉やセモリナも製造可能なように設計されている。精選工程にはSortex色選別機があり、マイコトキシンのカビで汚染されて紫色になった小麦粒を分離できる。製品の精製工程にはステリレーターと再ふるいが装備され、WinCos.r2制御システムで無人運転が可能である。原料小麦は同社のパラナ州にある受入れ、精選、乾燥及び貯蔵設備から供給される。製品の30%はパン用粉、パンミックス、家庭用粉などとして販売し、残りの70%は乾燥パスタやケーキミックスに使う。

製品は1,000キログラム包装でトラックによって得意先に届けられるか、ニューマ輸送で社内の工場に搬送される。

(WG・30-4/12)



ブルンジ 小麦粉などの輸入関税を撤廃。

政府は5月1日付けで、小麦粉、トウモロコシ粉、米及びパーム油の輸入関税を撤廃した。国内の生産量減による価格高騰を抑えるため。

(IGC-GMR・422/12)



モロッコ 製粉用小麦の輸入関税を復活。

政府の5月16日発表によると、5月末まで一時停止される予定の製粉用小麦の輸入関税は6月1日から2012年末まで17.5%になる。デュラム小麦と大麦は2012年末まで一時停止が継続される。

(IGC-GMR・422/12)



ロシア 小麦粉の不当価格引上げで数社に罰金。アンカー製粉は期限までに不払いで罰金が2倍に。

Ulyanovsk地区にあるAnkar製粉、Dimitrovgradkrupozavod社、Melservice社、及び個人事業主が共謀して、小麦価格上昇前の2010年7月5～19日に、小麦粉販売価格を22.2～59.1%引上げ、維持したとして、独占禁止法違反でそれぞれに200万ルーブル超、19.2万ルーブル、10.1万ルーブル、及び2万ルーブルの罰金が科せられた。そのうち、アンカー製粉は期限までに支払わなかったため、罰金が2倍の570万ルーブルに引き上げられた。

(World-Grain.com・June 4/12)

[表1] 世界の小麦需給

(百万トン)

| | 08/09 | 09/10 | 10/11 | 11/12(推定) | 12/13(予測) |
|--------|-------|-------|-------|-----------|-----------|
| 期初在庫 | 132 | 173 | 199 | 194 | 199 |
| 生産 | 685 | 679 | 653 | 695 | 665 |
| 供給計 | 817 | 851 | 852 | 889 | 865 |
| 消費計 | 645 | 653 | 658 | 689 | 682 |
| うち飼料用 | 113 | 116 | 119 | 143 | 131 |
| 工業用 | 18 | 19 | 19 | 19 | 20 |
| 食用 | 447 | 452 | 456 | 461 | 465 |
| 期末在庫 | 173 | 199 | 194 | 199 | 182 |
| 前年度比 | +41 | +26 | -5 | +5 | -17 |
| 主要輸出国* | 69 | 78 | 72 | 71 | 58 |
| 貿易 | 137 | 128 | 126 | 144 | 135 |

(2012年7月2日現在)*はアルゼンチン、オーストラリア、カナダ、EU、カザフスタン、ロシア、ウクライナ、アメリカ (IGC)

[表2] 世界の小麦貿易量

(百万トン)

| 輸 入 国 | | 09/10 | 10/11 | 11/12(推定) | 12/13(予測) |
|-------------|----------|-------|-------|-----------|-----------|
| ヨーロッパ | アルバニア | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 0.3 |
| | EU-27 | 5.1 | 4.7 | 7.3 | 6.3 |
| | ノルウェー | 0.4 | 0.3 | 0.3 | 0.3 |
| | スイス | 0.4 | 0.4 | 0.3 | 0.4 |
| | その他 | 0.3 | 0.3 | 0.4 | 0.4 |
| | 計 | 6.5 | 6.0 | 8.6 | 7.7 |
| CIS | アゼルバイジャン | 1.0 | 1.3 | 1.5 | 1.4 |
| | ベラルーシ | T | T | 0.1 | 0.1 |
| | グルジア | 0.7 | 0.6 | 0.8 | 0.8 |
| | ロシア | 0.1 | T | T | T |
| | ウクライナ | T | T | 0.1 | T |
| | ウズベキスタン | 1.7 | 1.6 | 2.3 | 2.0 |
| | その他 | 1.9 | 1.8 | 2.3 | 2.2 |
| | 計 | 5.5 | 5.4 | 7.0 | 6.5 |
| 北・中 アメリカ | キューバ | 0.7 | 0.8 | 0.8 | 0.8 |
| | メキシコ | 3.1 | 3.4 | 5.2 | 3.4 |
| | アメリカ | 2.2 | 2.2 | 2.8 | 2.8 |
| | その他 | 2.9 | 2.9 | 3.4 | 2.7 |
| | 計 | 8.8 | 9.3 | 12.2 | 9.7 |

| 輸 入 国 | | 09/10 | 10/11 | 11/12(推定) | 12/13(予測) | |
|-------|---------|---------|-------|-----------|-----------|------|
| 南アメリカ | ボリビア | 0.4 | 0.3 | 0.3 | 0.4 | |
| | ブラジル | 6.7 | 6.7 | 6.8 | 7.0 | |
| | チリー | 0.7 | 0.6 | 1.0 | 0.7 | |
| | コロンビア | 1.4 | 1.4 | 1.4 | 1.4 | |
| | エクワドル | 0.5 | 0.6 | 0.5 | 0.5 | |
| | ペルー | 1.6 | 1.8 | 1.7 | 1.7 | |
| | ベネズエラ | 1.5 | 1.4 | 1.7 | 1.5 | |
| | その他 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.2 | |
| | 計 | 13.1 | 12.7 | 13.5 | 13.3 | |
| 近東アジア | イラン | 3.0 | 0.1 | 2.5 | 0.7 | |
| | イラク | 3.9 | 3.5 | 3.7 | 3.7 | |
| | イスラエル | 1.8 | 1.4 | 1.9 | 1.7 | |
| | ヨルダン | 0.9 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | |
| | レバノン | 0.5 | 0.4 | 0.6 | 0.5 | |
| | サウジアラビア | 1.8 | 1.7 | 2.6 | 2.3 | |
| | シリア | 1.8 | 0.5 | 1.0 | 0.9 | |
| | トルコ | 3.3 | 3.5 | 3.5 | 3.7 | |
| | UAE | 1.4 | 0.8 | 1.6 | 1.3 | |
| | イエメン | 2.7 | 2.6 | 2.6 | 2.6 | |
| | その他 | 0.7 | 0.9 | 0.7 | 0.8 | |
| | 計 | 21.8 | 16.2 | 21.5 | 19.0 | |
| 極東アジア | 太平洋アジア | 中国 | 1.4 | 1.0 | 3.1 | 3.0 |
| | | インドネシア | 5.4 | 6.6 | 6.3 | 6.7 |
| | | 日本 | 5.5 | 6.0 | 6.2 | 5.9 |
| | | 北朝鮮 | 0.1 | 0.2 | 0.3 | 0.2 |
| | | 韓国 | 4.4 | 4.9 | 5.2 | 4.5 |
| | | マレーシア | 1.1 | 1.4 | 1.3 | 1.3 |
| | | フィリピン | 3.0 | 3.2 | 4.0 | 3.2 |
| | | シンガポール | 0.3 | 0.3 | 0.4 | 0.3 |
| | | 台湾 | 1.2 | 1.4 | 1.3 | 1.3 |
| | | タイ | 1.5 | 1.9 | 2.0 | 1.9 |
| | | ベトナム | 1.9 | 2.6 | 2.9 | 2.4 |
| | | その他 | 0.9 | 0.8 | 0.8 | 0.9 |
| | | | 計 | 26.9 | 30.3 | 33.7 |
| | 南アジア | バングラデシュ | 3.5 | 3.4 | 2.0 | 3.2 |
| | | インド | 0.3 | 0.2 | T | 0.1 |
| | | パキスタン | 0.2 | 0.1 | 0.1 | 0.3 |
| | | スリランカ | 1.2 | 1.1 | 1.1 | 1.1 |
| その他 | | 2.2 | 2.1 | 1.8 | 2.3 | |
| | 計 | 7.3 | 6.8 | 5.0 | 7.0 | |
| | 計 | 34.2 | 37.1 | 38.7 | 38.6 | |

| 輸 入 国 | | 09/10 | 10/11 | 11/12(推定) | 12/13(予測) | |
|------------------|-----------------------|----------|-------|-----------|-----------|------|
| ア フ リ カ | 北 ア フ リ カ | アルジェリア | 5.1 | 6.4 | 6.2 | 5.1 |
| | | エジプト | 10.2 | 10.4 | 10.8 | 10.1 |
| | | リビア | 2.1 | 1.4 | 1.5 | 1.6 |
| | | モロッコ | 2.3 | 3.9 | 3.5 | 5.3 |
| | | チュニジア | 1.5 | 1.8 | 1.7 | 1.8 |
| | 計 | 21.3 | 23.9 | 23.7 | 23.8 | |
| | サ ハ ラ 以 南 | コートジボワール | 0.6 | 0.5 | 0.5 | 0.5 |
| | | エチオピア | 0.9 | 0.3 | 1.6 | 0.7 |
| | | ケニア | 1.3 | 0.7 | 1.5 | 1.4 |
| | | ナイジェリア | 4.0 | 4.1 | 4.0 | 4.1 |
| | | 南アフリカ | 1.6 | 1.7 | 1.6 | 1.4 |
| | | スーダン | 1.8 | 1.6 | 1.9 | 1.9 |
| | | その他 | 6.2 | 5.5 | 6.7 | 6.2 |
| | 計 | 16.4 | 14.3 | 17.8 | 16.1 | |
| 計 | | 37.7 | 38.2 | 41.5 | 40.0 | |
| オセアニア | ニュージーランド | 0.3 | 0.4 | 0.5 | 0.3 | |
| | その他 | 0.4 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | |
| | 計 | 0.7 | 0.9 | 1.0 | 0.7 | |
| 世 界 計 | | 127.7 | 125.8 | 143.5 | 134.6 | |

注: 年度は7月～6月、Tは5万トン以下
(2012年7月2日現在)

(百万トン)

| 輸 出 国 | 09/10 | 10/11 | 11/12(推定) | 11/12(予測) |
|---------|-------|-------|-----------|-----------|
| アルゼンチン | 5.1 | 7.6 | 11.1 | 7.5 |
| オーストラリア | 13.7 | 18.5 | 22.5 | 21.5 |
| カナダ | 18.2 | 16.4 | 18.3 | 18.6 |
| EU-27 | 20.8 | 22.1 | 16.3 | 16.3 |
| カザフスタン | 8.0 | 5.6 | 9.7 | 9.5 |
| ロシア | 18.8 | 4.0 | 21.5 | 12.0 |
| ウクライナ | 9.3 | 4.3 | 5.3 | 3.5 |
| アメリカ | 23.9 | 35.7 | 27.5 | 32.0 |
| 中国 | 0.4 | 0.4 | 0.8 | 1.0 |
| インド | — | — | 1.0 | 3.0 |
| パキスタン | 0.3 | 1.3 | 0.5 | 1.0 |
| メキシコ | 0.9 | 0.8 | 1.0 | 0.8 |
| シリア | T | — | T | T |
| トルコ | 4.0 | 2.4 | 3.6 | 3.7 |
| その他 | 4.1 | 6.8 | 4.4 | 4.2 |
| 世 界 計 | 127.7 | 125.8 | 143.5 | 134.6 |

注: 年度は7月～6月、Tは5万トン以下
(2012年7月2日現在)

(IGC)

[表3] 世界の小麦粉貿易量(デュラム・セモリナを除く)

(小麦換算、千トン)

| 地域・国名 | | 08/09 | 09/10 | 10/11(推定) | 11/12(予測) | |
|-------------|-------------|---------|-------|-----------|-----------|-------|
| 輸 入 国 | ヨーロッパ | EU-27 | 35 | 43 | 43 | 40 |
| | | その他 | 67 | 25 | 47 | 40 |
| | | 計 | 102 | 68 | 90 | 80 |
| | C I S | ロシア | 14 | 8 | 10 | 20 |
| | | タジキスタン | 667 | 487 | 520 | 600 |
| | | ウズベキスタン | 1,222 | 1,499 | 1,400 | 1,500 |
| | | その他 | 544 | 246 | 520 | 460 |
| | | 計 | 2,447 | 2,239 | 2,450 | 2,580 |
| | 北・中 アメリカ | カナダ | 165 | 117 | 115 | 120 |
| | | キューバ | 191 | 74 | 35 | 35 |
| | | メキシコ | 46 | 67 | 105 | 110 |
| | | アメリカ | 235 | 229 | 230 | 230 |
| | | その他 | 81 | 130 | 135 | 165 |
| | | 計 | 718 | 618 | 620 | 660 |
| | 南アメリカ | ボリビア | 369 | 350 | 295 | 300 |
| | | ブラジル | 871 | 887 | 950 | 950 |
| | | その他 | 118 | 61 | 55 | 60 |
| | | 計 | 1,358 | 1,298 | 1,300 | 1,310 |
| | 近東アジア | イラク | 1,031 | 1,184 | 1,000 | 1,300 |
| | | イエメン | 154 | 76 | 80 | 100 |
| その他 | | 467 | 354 | 310 | 280 | |
| 計 | | 1,652 | 1,614 | 1,390 | 1,680 | |
| 極東アジア | アフガニスタン | 1,425 | 1,779 | 1,300 | 1,100 | |
| | 香港 | 348 | 358 | 360 | 380 | |
| | インドネシア | 782 | 1,005 | 1,100 | 1,100 | |
| | 北朝鮮 | 58 | 125 | 180 | 200 | |
| | 韓国 | 77 | 116 | 55 | 60 | |
| | モンゴル | 158 | 142 | 70 | 80 | |
| | フィリピン | 159 | 190 | 125 | 150 | |
| | タイ | 138 | 155 | 250 | 230 | |
| | ベトナム | 23 | 37 | 42 | 40 | |
| | その他 | 285 | 434 | 388 | 370 | |
| | 計 | 3,453 | 4,341 | 3,870 | 3,710 | |

| 地域・国名 | | | 08/09 | 09/10 | 10/11(推定) | 11/12(予測) |
|-------------|-----------|-------|--------|--------|-----------|-----------|
| 輸 入 国 | 北 アフリカ | リビア | 758 | 385 | 100 | 300 |
| | | その他 | 21 | 12 | 130 | 180 |
| | | 計 | 780 | 397 | 230 | 480 |
| | サハラ 以南 | アンゴラ | 524 | 459 | 550 | 600 |
| | | チャド | 73 | 103 | 55 | 60 |
| | | ガンビア | 58 | 77 | 90 | 90 |
| | | ギニア | 117 | 136 | 150 | 150 |
| | | ソマリア | 115 | 151 | 105 | 120 |
| | | スーダン | 108 | 100 | 30 | 30 |
| | | その他 | 411 | 448 | 550 | 610 |
| 計 | 1,406 | 1,475 | 1,530 | 1,660 | | |
| 計 | | 2,186 | 1,872 | 1,760 | 2,130 | |
| オセアニア | | 61 | 67 | 70 | 90 | |
| 不詳 | | 354 | 568 | 380 | 460 | |
| 世界計 | | | 12,331 | 12,685 | 11,930 | 12,700 |
| 輸 出 国 | アルゼンチン | | 1,368 | 1,278 | 1,286 | 1,300 |
| | オーストラリア | | 185 | 150 | 100 | 100 |
| | カナダ | | 223 | 262 | 225 | 200 |
| | EU | | 1,482 | 1,245 | 1,155 | 1,300 |
| | カザフスタン | | 2,733 | 3,514 | 2,526 | 3,300 |
| | ロシア | | 665 | 381 | 570 | 400 |
| | ウクライナ | | 309 | 165 | 122 | 200 |
| | アメリカ | | 388 | 545 | 406 | 450 |
| | 中国 | | 214 | 388 | 417 | 400 |
| | 日本 | | 245 | 269 | 267 | 300 |
| | パキスタン | | 500 | 300 | 900 | 400 |
| | トルコ | | 2,161 | 2,602 | 2,356 | 2,700 |
| | アラブ首長国連邦 | | 650 | 550 | 500 | 760 |
| その他 | | 1,207 | 1,034 | 1,102 | 890 | |

(2012年5月24日現在)

(IGC)

[表4] 世界の穀物の工業用用途別消費量

(百万トン)

| | 2009/10 | 2010/11 | 2011/12 (推定) | 2012/13 (予測) |
|------------|---------|---------|-----------------|-----------------|
| エタノール | 149.4 | 162.3 | 162.2 | 164.8 |
| (うち、バイオ燃料) | (134.6) | (147.3) | (147.3) | (149.9) |
| でんぶん | 95.8 | 100.0 | 105.8 | 109.6 |
| ビール醸造 | 34.1 | 33.8 | 35.3 | 35.9 |
| 計* | 280.3 | 297.2 | 304.2 | 311.6 |

(2012年5月24日現在) * 不詳を含む

(IGC)

[表5]世界のバイオ燃料用穀物消費量

(百万トン)

| 国名 | 穀物の種類 | 2009/10 | 2010/11 | 2011/12 (推定) | 2012/13 (予測) |
|------|--------|---------|---------|-----------------|-----------------|
| アメリカ | トウモロコシ | 116.6 | 127.5 | 127.0 | 127.0 |
| | モロコシ | 1.7 | 1.6 | 1.7 | 1.4 |
| | 計 | 118.3 | 129.2 | 128.8 | 128.5 |
| EU | トウモロコシ | 2.3 | 3.2 | 3.6 | 4.5 |
| | 小麦 | 3.9 | 4.3 | 4.2 | 5.2 |
| | 大麦 | 0.4 | 0.4 | 0.3 | 0.4 |
| | 計 | 7.1 | 8.3 | 8.5 | 10.5 |
| カナダ | トウモロコシ | 2.0 | 2.2 | 2.4 | 2.4 |
| | 小麦 | 0.5 | 0.6 | 0.6 | 0.7 |
| | 計 | 2.5 | 2.8 | 3.0 | 3.1 |
| 中国 | トウモロコシ | 4.0 | 4.0 | 4.1 | 4.1 |
| | 小麦 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 |
| | モロコシ | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 0.3 |
| | 計 | 5.3 | 5.3 | 5.4 | 5.4 |
| その他 | | 1.4 | 1.6 | 1.6 | 2.4 |
| 世界 | トウモロコシ | 125.8 | 137.9 | 138.1 | 139.7 |
| | 小麦 | 5.7 | 6.3 | 6.1 | 7.4 |
| | モロコシ | 2.3 | 2.2 | 2.3 | 2.0 |
| | 大麦 | 0.4 | 0.5 | 0.4 | 0.5 |
| | その他/不詳 | 0.5 | 0.4 | 0.4 | 0.4 |
| | 計 | 134.6 | 147.3 | 147.3 | 149.9 |

(2012年5月24日現在)

(IGC)

[表6] アメリカの小麦需給

(千トン)

| 項目 | | 2012-13 | 2011-12 | 2010-11 | 2009-10 | |
|------|------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 供給 | 期初在庫 | 19,813 | 23,460 | 26,562 | 17,881 | |
| | 生産 | 60,799 | 54,404 | 60,065 | 60,364 | |
| | 輸入 | 3,266 | 3,266 | 2,640 | 3,239 | |
| | 計 | 83,878 | 81,157 | 89,240 | 81,456 | |
| 需要 | 国内消費 | 食用 | 25,719 | 25,583 | 25,202 | 25,011 |
| | | 種子用 | 1,987 | 2,150 | 1,932 | 1,878 |
| | | 飼料用 | 5,987 | 4,899 | 3,592 | 4,082 |
| | | 計 | 33,693 | 32,631 | 30,699 | 30,971 |
| | 輸出 | 31,298 | 28,712 | 35,081 | 23,922 | |
| | 計 | 64,991 | 61,344 | 65,780 | 54,921 | |
| 期末在庫 | | 18,888 | 19,813 | 23,460 | 26,562 | |

(2012年6月1日現在)

(USDA)

[表7] アメリカ小麦の生産者平均手取り価格

(ドル/ブッシェル)

| 月別 | 2012 | 2011 | 2010 | 2009 | 2008 | 2007 |
|-----|------|------|------|------|-------|------|
| 1月 | 7.04 | 6.69 | 4.90 | 6.20 | 7.96 | 4.53 |
| 2月 | 7.10 | 7.42 | 4.73 | 5.79 | 10.10 | 4.71 |
| 3月 | 7.19 | 7.55 | 4.70 | 5.71 | 10.50 | 4.75 |
| 4月 | 7.11 | 8.01 | 4.41 | 5.75 | 10.10 | 4.89 |
| 5月 | 6.60 | 8.16 | 4.34 | 5.85 | 8.87 | 4.88 |
| 6月 | | 7.41 | 4.16 | 5.72 | 7.62 | 5.03 |
| 7月 | | 7.10 | 4.49 | 5.17 | 7.16 | 5.17 |
| 8月 | | 7.61 | 5.44 | 4.85 | 7.64 | 5.64 |
| 9月 | | 7.55 | 5.79 | 4.48 | 7.43 | 6.76 |
| 10月 | | 7.29 | 5.88 | 4.47 | 6.67 | 7.65 |
| 11月 | | 7.26 | 6.10 | 4.79 | 6.28 | 7.39 |
| 12月 | | 7.19 | 6.44 | 4.87 | 5.91 | 7.71 |

(USDA)

[表8] アメリカの消費者物価指数 (1982~84の平均を100として)

| | 2012年4月 | 前月比 | 前年同月比 |
|---------------------------|---------|------|-------|
| 家庭で消費する全製品 | 231.7 | 0.1 | 3.2 |
| 全穀物及びベーカリー製品 | 268.0 | 0.3 | 4.5 |
| ベーカリー製品 | 286.6 | 0.3 | 4.5 |
| パン* | 173.6 | 0.3 | 4.0 |
| 白パン | 314.1 | 0.3 | 4.2 |
| 白パン以外のパン | 335.6 | 0.5 | 3.0 |
| フレッシュビスケット、ロール、マフィン* | 166.2 | -1.3 | 2.8 |
| ケーキ、カップケーキ、クッキー | 268.2 | 1.2 | 5.9 |
| フレッシュケーキ、カップケーキ | 279.0 | 0.5 | - |
| クッキー | 258.4 | 1.8 | - |
| その他のベーカリー製品 | 259.8 | 0.3 | 4.4 |
| フレッシュスイートロール、コーヒーケーキ、ドーナツ | 268.7 | -2.4 | 4.2 |
| クラッカー、クラッカー製品 | 307.3 | 2.4 | 5.9 |
| 冷凍及び冷凍製品、パイ、タルト | 269.4 | -0.2 | 4.9 |
| シリアル、穀物製品 | 233.7 | 0.4 | 4.8 |
| 家庭用粉、プレミックス | 252.1 | 0.0 | 8.6 |
| 朝食用シリアル | 228.9 | 0.4 | 3.7 |
| 米、パスタ、コーンミール | 240.7 | 0.7 | 4.5 |

* 1997年12月を100とした指数

[表9] 2011/12年度産カナダ小麦の生産者への修正初期支払額

(カナダドル/トン)

| 銘柄・等級 (蛋白量) | 第1回支払額 (11年8月1日) | 増加額 (12年2月21日) | 増加額 (12年4月24日) | 増加額 (12年6月26日) | 12年6月までの 支払額合計 |
|----------------|---------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 1CWRS (15.5) | 236.50 | 24.90 | 16.35 | 28.00 | 305.75 |
| 1CWRS (14.5) | 225.00 | 24.90 | 16.35 | 28.00 | 294.25 |
| 1CWRS (13.5) | 214.85 | 24.90 | 16.35 | 28.00 | 284.10 |
| 1CWRS (12.5) | 208.00 | | 16.35 | 28.00 | 252.35 |
| 2CWRS (13.5) | 205.85 | 27.90 | 16.35 | 28.00 | 278.10 |
| 3CWRS (13.5) | 196.85 | | 23.10 | 28.00 | 247.95 |
| CW Feed | 150.00 | | 10.90 | 28.00 | 188.90 |
| 1CWAD (13.5) | 221.25 | 44.55 | | 44.00 | 309.80 |
| 1CWAD (13.0) | 218.00 | 44.30 | | 44.00 | 306.30 |

(CWB)

[表10] 中国の第11次5か年計画中の主要食品グループ別出荷額と平均伸び率

| 製品グループ | 単 位 | 年 | | 累積伸び率 (%) | 年平均伸び率 (%) |
|-----------------|--------|--------|---------|--------------|---------------|
| | | 2005 | 2010 | | |
| 米 | 千トン | 17,662 | 82,444 | 366.7 | 36.1 |
| 小麦粉 | 千トン | 39,923 | 101,185 | 153.5 | 20.4 |
| 食用植物油 | 千トン | 16,120 | 20,050 | 24.4 | 4.5 |
| 肉 | 千トン | 77,000 | 79,250 | 2.9 | 0.6 |
| 海産物 | 千トン | 44,199 | 53,730 | 21.6 | 4.0 |
| 最終砂糖製品 | 千トン | 9,124 | 11,029 | 20.9 | 3.9 |
| 乳製品 | 千トン | 12,044 | 21,596 | 79.3 | 12.4 |
| ケーキとクッキー | 千トン | 429 | 1,505 | 250.8 | 28.5 |
| 缶詰食品 | 千トン | 5,003 | 9,186 | 83.6 | 12.9 |
| アルコール飲料 | 百万リットル | 35,658 | 56,736 | 59.1 | 9.7 |
| 白酒(65%、vol/vol) | 百万リットル | 8,528 | 8,906 | 4.4 | 0.9 |
| ビール | 百万リットル | 31,261 | 44,831 | 43.4 | 7.5 |
| ブドウ酒 | 百万リットル | 434 | 1,088 | 150.7 | 20.2 |
| ソフトドリンク | 千トン | 33,804 | 99,838 | 195.3 | 24.2 |
| 精製茶 | 千トン | 524 | 1,430 | 172.9 | 22.2 |

(CFW)

[表11] ドイツのパン用穀物挽砕量給

(千トン)

| | | 国内向け | 輸出向け | 計 |
|--------|-------|---------|-------|---------|
| 普通小麦 | 2010 | 6,583.9 | 641.7 | 7,226.3 |
| | 2011 | 6,379.9 | 569.4 | 6,949.3 |
| | 前年対比% | -3.1 | -11.3 | -3.8 |
| ライ麦 | 2010 | 839.2 | 18.0 | 857.5 |
| | 2011 | 827.0 | 18.3 | 845.3 |
| | 前年対比% | -1.5 | 1.6 | -1.4 |
| パン用穀物計 | 2010 | 7,423.1 | 659.7 | 8,082.8 |
| | 2011 | 7,206.9 | 587.7 | 7,794.6 |
| | 前年対比% | -2.9 | -10.9 | -3.6 |

(MM)

[表12] ドイツの小麦・ライ麦・ふすまの価格

| 品目 | 2012年 | | | | 2011年 |
|-------------|-----------|-----|-----------|-----|-----------|
| | 5/21~5/27 | | 5/14~5/20 | | 5/23~5/29 |
| | Euro/トン | 市場数 | Euro/トン | 市場数 | Euro/トン |
| Aグループ 高品質小麦 | 221.46 | 6 | 221.11 | 7 | 276.38 |
| パン用小麦 | 219.25 | 8 | 218.50 | 7 | 260.40 |
| パン用ライ麦 | 260.30 | 5 | 262.35 | 5 | 238.13 |
| 飼料用小麦 | 217.19 | 8 | 216.42 | 6 | 231.63 |
| 小麦ふすま(バラ) | 165.75 | 6 | 168.75 | 6 | 148.36 |

(MM)

[表13] ドイツの業務用製粉製品の製粉工場出荷価格指数

| 品目 | 2012年4月 | 2012年3月 | 2011年4月 |
|------|---------|---------|---------|
| 小麦粉 | 132.4 | 133.6 | 149.9 |
| ライ麦粉 | 139.4 | 140.8 | 155.8 |

(ドイツ連邦統計局)

[表14] ドイツの家庭用小麦粉消費者価格

(Euro/キログラム)

| 品目 | 2012年4月 | 2012年3月 | 2011年4月 |
|---------------|---------|---------|---------|
| タイプ405の格安小麦粉 | 0.45 | 0.45 | 0.25 |
| タイプ405の銘柄品小麦粉 | 0.85 | 0.83 | 0.82 |

(AMI 消費者価格一覧表局)

製粉工場における玄麦および小麦粉の月別需給動向(24年度)

(単位：千トン、前年比%)

| 年 月 | 玄 | | | | 麦 | | | | 小 | | | | 粉 | | | | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|
| | 買入数量 | 対前年比 | 加工量 | 対前年比 | 月末在庫 | 対前年比 | 生産量 | 対前年比 | 販売量 | 対前年比 | 月末在庫 | 対前年比 | 生産量 | 対前年比 | 販売量 | 対前年比 | 月末在庫 | 対前年比 |
| 平成18年度 | 6,271 | 103.8 | 5,982 | 99.2 | 751 | 162.9 | 4,599 | 99.5 | 4,594 | 99.5 | 287 | 101.8 | 4,599 | 99.5 | 4,594 | 99.5 | 287 | 101.8 |
| 平成19年度 | 5,901 | 94.1 | 6,037 | 100.9 | 616 | 82.0 | 4,684 | 101.8 | 4,677 | 101.8 | 293 | 102.1 | 4,684 | 101.8 | 4,677 | 101.8 | 293 | 102.1 |
| 平成20年度 | 5,748 | 97.4 | 5,848 | 96.9 | 517 | 83.9 | 4,564 | 97.4 | 4,575 | 97.8 | 282 | 96.3 | 4,564 | 97.4 | 4,575 | 97.8 | 282 | 96.3 |
| 平成21年度 | 5,802 | 101.1 | 5,916 | 101.4 | 405 | 78.2 | 4,612 | 101.1 | 4,620 | 101.0 | 274 | 97.1 | 4,612 | 101.1 | 4,620 | 101.0 | 274 | 97.1 |
| 平成22年度 | 6,559 | 113.0 | 6,041 | 102.1 | 924 | 228.1 | 4,725 | 102.4 | 4,690 | 101.5 | 308 | 112.6 | 4,725 | 102.4 | 4,690 | 101.5 | 308 | 112.6 |
| 平成23年度 | 6,362 | 97.0 | 6,040 | 100.0 | 1,246 | 134.9 | 4,708 | 99.6 | 4,700 | 100.2 | 316 | 102.6 | 4,708 | 100.2 | 4,700 | 100.2 | 316 | 102.6 |
| 23.4 | 533 | 105.5 | 564 | 103.9 | 893 | 242.8 | 441 | 103.1 | 434 | 102.2 | 315 | 114.0 | 441 | 103.1 | 434 | 102.2 | 315 | 114.0 |
| 5 | 470 | 88.0 | 512 | 104.7 | 855 | 207.3 | 394 | 102.5 | 390 | 104.9 | 320 | 110.4 | 394 | 102.5 | 390 | 104.9 | 320 | 110.4 |
| 6 | 523 | 112.3 | 526 | 106.8 | 852 | 220.9 | 407 | 105.1 | 416 | 107.1 | 311 | 107.6 | 407 | 105.1 | 416 | 107.1 | 311 | 107.6 |
| 7 | 573 | 109.4 | 461 | 94.1 | 964 | 229.9 | 354 | 92.8 | 350 | 90.8 | 316 | 110.5 | 354 | 92.8 | 350 | 90.8 | 316 | 110.5 |
| 期 計 | 2,100 | 103.5 | 2,060 | 102.2 | | | 1,597 | 101.0 | 1,590 | 101.3 | | | 1,597 | 101.0 | 1,590 | 101.3 | | |
| 8 | 720 | 140.0 | 455 | 96.2 | 1,229 | 267.0 | 351 | 95.8 | 365 | 101.0 | 302 | 103.8 | 351 | 101.0 | 365 | 101.0 | 302 | 103.8 |
| 9 | 580 | 45.4 | 499 | 101.5 | 1,309 | 105.1 | 384 | 100.6 | 387 | 100.4 | 298 | 104.2 | 384 | 100.6 | 387 | 100.4 | 298 | 104.2 |
| 10 | 600 | 255.4 | 497 | 99.1 | 1,412 | 144.1 | 385 | 97.7 | 387 | 101.2 | 297 | 99.5 | 385 | 101.2 | 387 | 101.2 | 297 | 99.5 |
| 11 | 507 | 99.5 | 523 | 101.2 | 1,396 | 143.6 | 410 | 101.5 | 401 | 98.6 | 306 | 103.4 | 410 | 101.5 | 401 | 98.6 | 306 | 103.4 |
| 期 計 | 2,406 | 94.9 | 1,974 | 99.5 | | | 1,531 | 98.9 | 1,541 | 100.2 | | | 1,531 | 98.9 | 1,541 | 100.2 | | |
| 12 | 453 | 94.6 | 542 | 98.7 | 1,307 | 144.9 | 428 | 99.8 | 435 | 100.0 | 298 | 103.2 | 428 | 99.8 | 435 | 100.0 | 298 | 103.2 |
| 24.1 | 356 | 83.6 | 452 | 98.0 | 1,211 | 139.7 | 354 | 98.1 | 336 | 97.0 | 317 | 104.3 | 354 | 98.1 | 336 | 97.0 | 317 | 104.3 |
| 2 | 489 | 86.7 | 483 | 100.8 | 1,217 | 127.9 | 380 | 102.0 | 373 | 101.5 | 324 | 104.8 | 380 | 102.0 | 373 | 101.5 | 324 | 104.8 |
| 3 | 558 | 106.4 | 529 | 95.8 | 1,246 | 134.9 | 418 | 96.3 | 426 | 97.9 | 316 | 102.6 | 418 | 96.3 | 426 | 97.9 | 316 | 102.6 |
| 期 計 | 1,856 | 93.1 | 2,006 | 98.3 | | | 1,580 | 99.0 | 1,570 | 99.1 | | | 1,580 | 99.0 | 1,570 | 99.1 | | |
| 24.4 | 336 | 63.1 | 512 | 90.8 | 1,071 | 119.9 | 405 | 91.8 | 400 | 92.2 | 321 | 101.8 | 405 | 91.8 | 400 | 92.2 | 321 | 101.8 |
| 5 | 393 | 83.6 | 484 | 95.2 | 980 | 114.6 | 379 | 96.2 | 383 | 98.4 | 317 | 99.1 | 379 | 96.2 | 383 | 98.4 | 317 | 99.1 |
| 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 期 計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 期 計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 25.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 期 計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 年度計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(注) 1. 玄麦の買入・加工数量にはSBSでの買受分(19年度から)、大臣証明制度による輸出見返り分、納付金輸入分、民間流通麦及びその他国内産麦を含み、小麦粉の生産・販売量は、輸出分を除いた数量である。
 2. 「製粉・精麦・麦茶工場需給実績報告」(総合食料局食糧貿易課)による。
 3. 四捨五入の間係で内訳と計が一致しないことがある。
 4. 24年5月分は速報のため、選って訂正がある場合があります。

小麦加工食品の輸出の推移

(単位：トン、金額：千円)

| 区分 年月 | 小麦粉、小麦(ひき割、ミール、ペレット) | | | 小麦粉調製品(ケーキミックスを含む) | | | マカロニおよびスパゲッティ | | | うどんおよびそうめん | | |
|-----------|----------------------|-------|-----------|--------------------|-------|------------|---------------|-------|-----------|------------|-------|-----------|
| | 数量 | 前年増減率 | 金額 | 数量 | 前年増減率 | 金額 | 数量 | 前年増減率 | 金額 | 数量 | 前年増減率 | 金額 |
| 平成16年 | 304,465 | -4.5 | 8,332,834 | 1,791 | 16.0 | 558,959 | 328 | -20.0 | 45,188 | 7,719 | 17.3 | 2,008,637 |
| 17 | 289,911 | -4.8 | 8,048,049 | 2,317 | 29.4 | 744,439 | 1,054 | 221.3 | 110,260 | 7,863 | 1.9 | 2,062,502 |
| 18 | 290,033 | 0.0 | 7,895,261 | 2,442 | 5.4 | 797,965 | 1,196 | 13.4 | 126,174 | 10,065 | 28.0 | 2,476,428 |
| 19 | 255,377 | -11.9 | 7,725,611 | 3,151 | 29.1 | 1,043,144 | 1,150 | -3.8 | 140,800 | 12,561 | 24.8 | 2,988,513 |
| 20 | 186,882 | -26.8 | 8,338,085 | 3,377 | 7.1 | 1,242,742 | 743 | -35.4 | 150,112 | 12,517 | -0.3 | 3,227,623 |
| 21 | 185,229 | -0.9 | 5,414,482 | 3,113 | -7.8 | 1,150,484 | 822 | 10.6 | 150,825 | 11,947 | -4.6 | 3,124,772 |
| 22 | 196,183 | 5.9 | 5,860,022 | 3,574 | 14.8 | 1,256,700 | 770 | -6.3 | 139,835 | 12,492 | 4.6 | 3,214,545 |
| 23 | 191,480 | -2.4 | 5,791,147 | 2,497 | -30.1 | 917,040 | 607 | -21.1 | 103,142 | 11,728 | -6.1 | 3,005,454 |
| 24年1月 | 14,475 | 33.1 | 409,943 | 230 | 48.6 | 70,742 | 27 | -44.6 | 4,911 | 693 | -28.6 | 168,187 |
| 2 | 17,349 | -13.5 | 458,367 | 174 | -7.3 | 69,773 | 57 | 9.112 | 9,112 | 832 | -10.3 | 218,111 |
| 3 | 17,733 | 1.1 | 512,385 | 243 | 15.7 | 82,578 | 49 | -20.8 | 8,920 | 1,139 | 14.5 | 293,223 |
| 4 | 15,761 | 42.5 | 516,139 | 227 | 29.6 | 88,309 | 35 | -3.8 | 8,240 | 979 | 10.4 | 251,276 |
| 5 | 15,672 | 13.4 | 494,231 | 136 | 7.9 | 60,991 | 46 | -5.8 | 8,233 | 875 | -3.8 | 225,974 |
| 6 | | | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | |
| 24年1~12月計 | 80,990 | 10.4 | 2,391,065 | 1,011 | 18.3 | 372,393 | 215 | -16.2 | 39,416 | 4,518 | -3.6 | 1,156,771 |
| 区分 年月 | ビスケット(スイート) | | | その他のペーカリー製品等 | | | インスタントラーメン | | | | | |
| | 数量 | 前年増減率 | 金額 | 数量 | 前年増減率 | 金額 | 数量 | 前年増減率 | 金額 | | | |
| 平成16年 | 769 | -26.9 | 720,628 | 9,328 | 13.5 | 7,104,285 | 8,288 | -5.2 | 2,847,158 | | | |
| 17 | 719 | -6.6 | 762,779 | 12,274 | 31.6 | 8,722,215 | 8,445 | 1.9 | 3,214,048 | | | |
| 18 | 762 | 6.1 | 804,131 | 13,120 | 6.9 | 9,755,783 | 9,091 | 7.7 | 3,586,187 | | | |
| 19 | 1,098 | 44.2 | 1,133,758 | 14,688 | 12.0 | 11,536,637 | 9,200 | 1.2 | 3,645,447 | | | |
| 20 | 1,198 | 9.1 | 1,270,762 | 14,672 | -0.1 | 12,115,107 | 8,120 | -11.7 | 3,507,616 | | | |
| 21 | 886 | -26.1 | 993,506 | 11,972 | -18.4 | 10,258,866 | 6,181 | -23.9 | 2,919,649 | | | |
| 22 | 978 | 10.0 | 1,067,436 | 13,343 | 11.5 | 11,770,935 | 5,981 | -3.2 | 2,825,812 | | | |
| 23 | 694 | -28.4 | 801,032 | 11,967 | -10.3 | 10,091,546 | 5,012 | -16.2 | 2,146,062 | | | |
| 24年1月 | 66 | -11.5 | 57,338 | 826 | -3.9 | 714,876 | 324 | -21.2 | 135,296 | | | |
| 2 | 46 | -18.7 | 47,733 | 1,051 | 2.1 | 940,748 | 437 | 1.4 | 183,405 | | | |
| 3 | 119 | 69.4 | 100,397 | 1,080 | 5.4 | 990,731 | 476 | 9.5 | 221,982 | | | |
| 4 | 54 | -5.7 | 61,210 | 1,162 | 39.6 | 1,026,360 | 443 | 55.3 | 200,095 | | | |
| 5 | 61 | 101.5 | 65,620 | 1,155 | 80.8 | 1,016,057 | 478 | 27.3 | 199,919 | | | |
| 6 | | | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | |
| 24年1~12月計 | 345 | 19.7 | 332,298 | 5,275 | 20.3 | 4,688,775 | 2,158 | 11.4 | 940,697 | | | |

(注) ①財務省貿易統計(全国分>品別国別表>輸出>月次)による。
 ②その他のペーカリー製品等は、スイートビスケットおよび米菓を除く焼菓子類並びにライスバーバー等をいう。

国際価格の推移

(単位：トン当たりドル、()内はブッシェル当たりドル)

| 品名 | 年 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | |
|--------------------------------|---------------|---------------|---------------|----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 小麦 (シカゴ・SRW小麦No.2、 期近もの) | 2004 | (3.86) 142 | (3.75) 138 | (3.73) 137 | (3.83) 141 | (3.54) 130 | (3.51) 129 | (3.33) 122 | (3.03) 111 | (3.37) 124 | (3.19) 117 | (3.06) 112 | (3.03) 111 | |
| | 2005 | (2.98) 109 | (3.00) 110 | (3.68) 135 | (3.09) 113 | (3.06) 113 | (3.23) 119 | (3.49) 128 | (3.49) 128 | (3.16) 116 | (3.23) 119 | (3.39) 125 | (3.07) 113 | (3.19) 117 |
| | 2006 | (3.29) 121 | (3.52) 129 | (3.62) 133 | (3.50) 129 | (4.00) 147 | (4.00) 133 | (3.62) 134 | (3.66) 134 | (3.77) 138 | (3.93) 144 | (5.43) 199 | (4.82) 177 | (4.94) 182 |
| | 2007 | (4.64) 170 | (4.55) 167 | (4.61) 169 | (4.88) 179 | (4.97) 183 | (6.07) 223 | (6.07) 223 | (6.02) 221 | (6.97) 256 | (8.46) 311 | (9.53) 350 | (7.78) 282 | (8.55) 314 |
| | 2008 | (9.32) 342 | (9.43) 378 | (10.93) 426 | (8.96) 329 | (7.76) 284 | (8.77) 322 | (8.11) 298 | (8.11) 298 | (8.25) 303 | (7.27) 267 | (5.56) 204 | (5.34) 196 | (5.20) 191 |
| | 2009 | (5.69) 209 | (5.36) 197 | (5.44) 200 | (5.22) 192 | (5.78) 212 | (5.75) 211 | (5.35) 196 | (5.35) 196 | (4.82) 177 | (4.71) 173 | (5.05) 186 | (5.39) 198 | (5.37) 197 |
| | 2010 | (5.10) 187 | (4.87) 179 | (4.79) 176 | (4.91) 180 | (4.72) 173 | (4.52) 166 | (4.91) 219 | (5.96) 219 | (7.03) 258 | (7.27) 267 | (7.05) 259 | (6.73) 247 | (7.65) 281 |
| | 2011 | (7.73) 284 | (8.40) 309 | (6.68) 245 | (7.44) 273 | (7.36) 271 | (6.73) 247 | (6.95) 255 | (6.95) 255 | (7.13) 262 | (6.96) 256 | (6.23) 229 | (6.33) 232 | (5.79) 213 |
| | 2012 | (6.02) 221 | (6.26) 230 | (6.65) 244 | (6.24) 229 | (6.09) 224 | (6.10) 224 | (8.85) 325 | (8.85) 325 | (2.25) 89 | (2.14) 84 | (2.06) 81 | (1.99) 78 | (2.00) 79 |
| | 2004 | (2.67) 105 | (2.83) 112 | (3.02) 119 | (3.16) 125 | (3.00) 118 | (2.86) 113 | (2.36) 93 | (2.36) 93 | (2.15) 85 | (2.04) 80 | (2.02) 80 | (1.93) 76 | (2.02) 80 |
| | 2005 | (2.00) 79 | (2.00) 79 | (2.14) 84 | (2.08) 82 | (2.08) 82 | (2.22) 87 | (2.37) 93 | (2.37) 93 | (2.30) 85 | (2.42) 80 | (3.03) 80 | (3.56) 140 | (3.70) 146 |
| | 2006 | (2.13) 84 | (2.23) 88 | (2.24) 88 | (2.37) 93 | (2.45) 97 | (2.38) 94 | (2.44) 96 | (2.44) 96 | (2.30) 91 | (2.42) 95 | (3.03) 119 | (3.56) 140 | (3.70) 146 |
| 2007 | (3.91) 154 | (4.11) 162 | (4.02) 158 | (3.62) 142 | (3.70) 146 | (3.81) 150 | (3.26) 128 | (3.26) 128 | (3.31) 130 | (3.51) 138 | (3.69) 145 | (3.69) 145 | (3.86) 152 | |
| 2008 | (5.08) 200 | (5.01) 203 | (5.56) 215 | (6.06) 239 | (5.91) 236 | (7.33) 288 | (6.47) 255 | (6.47) 255 | (5.30) 209 | (5.62) 221 | (3.88) 153 | (3.86) 152 | (3.75) 148 | |
| 2009 | (3.65) 144 | (3.63) 143 | (3.92) 154 | (3.94) 155 | (4.17) 164 | (4.06) 160 | (3.30) 130 | (3.30) 130 | (3.19) 126 | (3.47) 136 | (3.73) 147 | (3.91) 154 | (4.08) 160 | |
| 2010 | (3.72) 146 | (3.62) 142 | (3.63) 143 | (3.64) 143 | (3.63) 143 | (3.54) 139 | (3.92) 154 | (3.92) 154 | (4.12) 162 | (4.95) 195 | (5.63) 222 | (5.56) 219 | (5.84) 230 | |
| 2011 | (6.49) 255 | (6.91) 272 | (6.36) 250 | (7.42) 292 | (6.97) 275 | (7.02) 276 | (7.01) 276 | (7.01) 276 | (7.07) 278 | (7.01) 276 | (6.40) 252 | (6.46) 254 | (5.79) 228 | |
| 2012 | (6.00) 236 | (6.27) 247 | (6.69) 263 | (6.29) 248 | (5.97) 235 | (5.80) 228 | (7.77) 306 | (7.77) 306 | | | | | | |

(注) 1. 小麦は、シカゴ相場による月央の終値である(2012年7月分は7月16日)。
2. とうもろこしはシカゴ相場による月平均価格である。

輸入食糧小麦の入札結果(港湾諸経費を除く)の概要

(単位：トン、円/ドル当たり)

| 入札月および積月 | | 平成23年9月入札分 (積月：11月積み) | | | 平成23年10月入札分 (積月：12月積み) | | | 平成23年11月入札分 (積月：1月積み) | | | 平成23年12月入札分 (積月：2月積み) | | | 平成24年1月入札分 (積月：3月積み) | | |
|----------|-----|--------------------------|-----------------------|--------------|---------------------------|-----------------------|--------------|--------------------------|-----------------------|--------------|--------------------------|-----------------------|--------------|-------------------------|-----------------------|--------------|
| 産地 | 銘柄 | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | ※左の税込み 価格 | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | ※左の税込み 価格 | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | ※左の税込み 価格 | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | ※左の税込み 価格 | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | ※左の税込み 価格 |
| アメリカ | WW | 50,115 | 24,996 | 26,246 | 53,232 | 22,570 | 23,699 | 62,525 | 22,403 | 23,523 | 63,476 | 21,408 | 22,478 | 73,185 | 22,405 | 23,525 |
| | SH | 57,568 | 29,896 | 31,391 | 59,928 | 26,474 | 27,798 | 56,485 | 26,895 | 28,240 | 67,495 | 24,936 | 26,183 | 96,900 | 25,043 | 26,295 |
| | DNS | 66,944 | 34,717 | 36,453 | 42,672 | 34,658 | 36,391 | 41,719 | 34,899 | 36,644 | 75,468 | 32,494 | 34,119 | 105,675 | 31,174 | 32,733 |
| | 小計 | 174,627 | 30,338 | 31,855 | 155,832 | 27,381 | 28,750 | 160,729 | 27,225 | 28,586 | 206,439 | 26,614 | 27,945 | 275,760 | 26,692 | 28,027 |
| カナダ | 1CW | 63,356 | 35,609 | 37,389 | 97,284 | 35,084 | 36,817 | 94,119 | 34,107 | 35,812 | 74,256 | 32,202 | 33,812 | 105,580 | 31,257 | 32,820 |
| | 小計 | 63,356 | 35,609 | 37,389 | 97,284 | 35,084 | 36,817 | 94,119 | 34,107 | 35,812 | 74,256 | 32,202 | 33,812 | 105,580 | 31,257 | 32,820 |
| オーストラリア | ASW | 53,938 | 29,980 | 31,479 | 58,400 | 24,171 | 25,380 | 58,510 | 23,770 | 24,959 | 60,720 | 23,387 | 24,556 | 93,365 | 23,618 | 24,799 |
| | 小計 | 53,938 | 29,980 | 31,479 | 58,400 | 24,171 | 25,380 | 58,510 | 23,770 | 24,959 | 60,720 | 23,387 | 24,556 | 93,365 | 23,618 | 24,799 |
| 計 | | 291,921 | 31,416 | 32,987 | 311,516 | 29,179 | 30,638 | 313,358 | 28,647 | 30,079 | 341,415 | 27,255 | 28,618 | 474,705 | 27,103 | 28,458 |



| 入札月および積月 | | 平成24年2月入札分 (積月：4月積み) | | | 平成24年3月入札分 (積月：5月積み、6月到着) | | | 平成24年4月入札分 (積月：6月積み、7月到着) | | | 平成24年5月入札分 (積月：7月積み、8月到着) | | | 平成24年5月及び6月入札分 (積月：8月積み、9月到着) | | |
|----------|-----|-------------------------|-----------------------|--------------|------------------------------|-----------------------|--------------|------------------------------|-----------------------|--------------|------------------------------|-----------------------|--------------|----------------------------------|-----------------------|--------------|
| 産地 | 銘柄 | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | ※左の税込み 価格 | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | ※左の税込み 価格 | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | ※左の税込み 価格 | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | ※左の税込み 価格 | 数量 | 落札価格 (加重平均) ※税別 | ※左の税込み 価格 |
| アメリカ | WW | 56,035 | 24,273 | 25,487 | 68,262 | 26,340 | 27,657 | 50,850 | 25,953 | 27,251 | 65,888 | 24,607 | 25,837 | 80,290 | 24,435 | 25,657 |
| | SH | 56,492 | 26,626 | 27,957 | 71,301 | 28,887 | 30,331 | 73,629 | 26,998 | 28,348 | 78,823 | 26,039 | 27,341 | 77,140 | 25,829 | 27,120 |
| | DNS | 72,887 | 31,903 | 33,498 | 79,729 | 34,879 | 36,623 | 131,459 | 33,119 | 34,775 | 115,914 | 31,105 | 32,660 | 123,828 | 29,914 | 31,410 |
| | 小計 | 185,414 | 27,989 | 29,388 | 219,292 | 30,273 | 31,787 | 255,938 | 29,934 | 31,431 | 260,605 | 27,930 | 29,327 | 281,264 | 27,230 | 28,592 |
| カナダ | 1CW | 92,262 | 32,349 | 33,966 | 73,996 | 34,318 | 36,034 | 74,298 | 33,620 | 35,301 | 84,704 | 30,721 | 32,257 | 48,786 | 31,173 | 32,732 |
| | 小計 | 92,262 | 32,349 | 33,966 | 73,996 | 34,318 | 36,034 | 74,298 | 33,620 | 35,301 | 84,704 | 30,721 | 32,257 | 48,786 | 31,173 | 32,732 |
| オーストラリア | ASW | 54,224 | 26,784 | 28,123 | 72,289 | 27,285 | 28,649 | 60,324 | 26,081 | 27,385 | 68,950 | 25,684 | 26,968 | 74,465 | 25,223 | 26,484 |
| | 小計 | 54,224 | 26,784 | 28,123 | 72,289 | 27,285 | 28,649 | 60,324 | 26,081 | 27,385 | 68,950 | 25,684 | 26,968 | 74,465 | 25,223 | 26,484 |
| 計 | | 331,900 | 29,004 | 30,454 | 365,577 | 30,501 | 32,026 | 390,560 | 30,040 | 31,542 | 414,259 | 28,127 | 29,533 | 404,515 | 27,336 | 28,703 |

(注) 上表の詳細は、農林水産省ホームページ「申請・お問い合わせ」を参照し、次に「調達・入札」の「調達情報・公表事項」を参照して、「調達・入札」の「調達情報・公表」の「契約に添付する情報の公表」を参照し、「食料安定供給特別会計」を検索し(アドレス「http://www.maff.go.jp/i/supply/kouhyou/keiyaku/kyokyu.html」)、「米管理勘定・麦管理勘定」を参照し、「米管理勘定」の「一般競争入札・指名競争入札(物品役務等)」を検索して輸入小麦に該当する箇所をご覧ください。
(資料：農林水産省総合食料局(食糧貿易課))

—「ソフト＆ハード」(読者の欄)への投稿のお願い—

読者の皆様、当振興会の広報誌「製粉振興」の内容を、より親しみのもてるものにするために、次のような内容の投稿をお待ちしていますので、記事をお寄せ下さい。

また、この広報誌の内容の充実を図っていきたく考えていますので、ご意見等がございましたらお寄せ下さい。

- ・テーマは、小麦や小麦粉製品についての随想、紹介等と考えていますが、小麦と関係のない趣味などの話でも結構です
- ・投稿者名は実名でも筆名でも結構です
- ・長さは1,200字程度(1頁)とします
- ・掲載分には薄謝を進呈します



「コナちゃん」

(マスコットの小麦粉の精)

★編集後記

- 東日本大震災後二度目の夏となった。昨年の今頃は電力不足の懸念から節電対策で、東京電力管内の企業は薄氷を踏む思いだったのではないか。本年は関西電力管内の大飯原発の再稼働が、関西の節電対策の明暗を分けた。電力供給量には関心が集まるが、国内の将来にわたる原発の安全性や、電力の安定供給等の見通しが不明なのは国民不在と映ってしまう。
- 昨年も今年も、これらの対策は大震災被害に関連する対応であり、電力以外のことについて被災地の現状を見てみると、復興とは遠い状態にある。農業等生産現場の中には、今も立入り禁止区域が設けられ住民は何年も足を踏み入れることができない地域が多数ある。この地域は、将来再び生産が可能なのだろうか。避難している人達の将来展望を考えると胸が詰まる。
被災地の農業現状を考えると眼前に迫るTPP問題は、あまりに重大な課題に見えてしまう。
- 「内麦を沢山使用して下さい。安心できるように頑張ります。」
(国内麦生産の将来展望を開き、安定供給を進めたい)との気持ちが胸に伝わってきた。ある団体で、製粉企業等の懇親の場で聞いた言葉です。近年、世界の各地で地震や豪雨等による被害が多発しており、天候異変によるオーストラリア麦の大減産やロシアの輸出禁止措置等は世界の穀物市況に大きな影響を及ぼしたところです。国内においては東電原発被害や今年の九州地域豪雨等の経験は、今後、生産地域が視点を変えた対応による供給体制を考えていくことになるのではないだろうか。
今夏はエルニーニョに注意との情報や、米国の熱波被害が穀物の生産に大きく影響を与える可能性が伝えられており、世界の市況と輸入麦価が気になるところです。

製粉振興 7月号 (No.547)

発行／平成24年7月20日

編集発行人／落合通人

発行所／財団法人 製粉振興会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町15番6号
製粉会館2階

Tel. (03) 3666-2712 (代表)

<http://www.seifun.or.jp>

Fax.(03) 3667-1883

E-mail:seifunshin@mri.biglobe.ne.jp

禁無断転載